



*Strategic  
Business  
Innovator*

**2010年3月期 第2四半期  
SBIホールディングス株式会社  
決算説明会**

**2009年10月29日**

本資料に掲載されている事項は、SBIホールディングス株式会社によるSBIグループの業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、SBIグループ各社の発行する株式その他の金融商品への投資の勧誘を目的としたものではありません。

また、当社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。

なお、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

- 1. 2010年3月期上半期の事業概況**
- 2. 2010年3月期下半期以降の  
収益確保に向けた取り組み**
- 3. SBIグループの今後の飛躍に  
向けた重要施策**

# 1. 2010年3月期上半期の事業概況

(1) 連結決算業績

(2) 主要ビジネスラインの概況

(3) 経営の一層の効率化を目指して継続している  
SBIグループ内の組織再編成

## (1) 連結決算業績

# 2010年3月期第2四半期累計 連結決算業績

(単位:百万円)

	2009年3月期 2Q累計連結決算	2010年3月期 2Q累計連結決算	前年同期比 増減率(%)
売上高	71,747	63,153	▲12.0
営業利益	6,330	3,752	▲40.7
経常利益	4,773	2,012	▲57.8
税引前利益	※1,2 1,275	※3 1,074	▲15.8
当期純利益	▲1,523	822	—

※1 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式売却損94億円を特別損失に計上

※2 E \*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

※3 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

# 半期連結業績推移

(単位:百万円)

	2009年3月期		2010年3月期
	前上期 (2008年4月～9月)	前下期 (2008年10月～2009年3月)	当上期 (2009年4月～9月)
売上高	71,747	59,175	63,153
営業利益	6,330	※4 ▲1,926	3,752
経常利益	※1 4,773	※1 ▲4,735	2,012
税引前利益	※2、3 1,275	※5 ▲17,407	※6 1,074
当期純利益	▲1,523	▲16,852	822

※1 前年度通算で、持分法による投資損失 25億円(住信SBIネット銀行 18億円[08年3月期は31.7億円]、SBIジャパンネクスト証券 5億円等)、ネットした金融費用 10億円(受取利息・受取配当金等と支払利息等の差し引き)、が含まれます。

※2 民事再生手続開始の申立てを行ったゼファー社株式に対して関係会社株式売却損94億円を特別損失に計上

※3 E \*TRADE Korea株式の譲渡に伴い、104億円の特別利益を計上

※4 SBIキャピタルが運営するSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式に対し、評価損15億円を営業投資有価証券売上原価に計上

※5 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入24億円、住友信託銀行株式に対して投資有価証券評価損67億円、ブロードメディアの持分法投資損失13億円を特別損失として計上

※6 ゼファー社向け貸付金に対して貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

# 連結決算業績のハイライト①

## I 上半期として2期ぶりに最終黒字を達成

- 当期第2四半期累計では、売上高は前年同期に比べ12.0%減の632億円、営業利益は40.7%減の38億円となったものの、当期純利益は▲15億円から8億円に回復し、上半期としては2期ぶりの最終黒字を達成。

## II 株式市場が本格的な回復に至っていない中、アセットマネジメントならびにブローカレッジ&インベストメントバンキング事業が安定的に利益を確保

- 引き続き好調なFX取引による収益寄与も大きく、ブローカレッジ&インベストメントバンキング事業が前年同期に比べ営業利益が28.6%増の60億円となり、業績を牽引。
- 国内IPOが低迷し、同業他社のジャフコが第2四半期累計で18億円の営業赤字となるなど厳しい事業環境が続く中、当社のアセットマネジメント事業はアジア地域の株式市場が日米欧に先行して回復した恩恵を享受し、21億円の営業利益を確保。

## III ゼファー社向け貸付金に対する貸倒引当金繰入14億円を特別損失に計上

- ゼファー社向け貸付金に関する同社との訴訟に関し和解が成立したこと等により、当第2四半期に特別損失として14億円の貸倒引当金繰入を計上。

# 連結決算業績のハイライト②

## IV 上場子会社の業績も底を打ち、回復に転じる

- モーニングスターの連結営業利益は、前年同期に比べ減益ながらも、前年度下半期比では2.4倍となり、V字回復。
- ゴメス・コンサルティングはコスト削減により黒字転換を達成。第2四半期(7~9月)の売上高も前四半期(4~6月)を上回っており、業績は底を打つ。
- SBIベリトランスの連結営業利益は前年同期比13%増となり、引き続き順調に業績を伸張させている。
- SBIライフリビングは、事業再編による収益の多様化などが奏効し、第2四半期(7~9月)に四半期ベースでの営業黒字に転換。

## V 2009年9月末における現預金残高(連結ベース)は1,174億円と高水準を維持しており、引き続き財務健全性を堅持

- ユーロMTNによる発行可能限度額も300億円増枠して800億円としており、機動的な債券発行による安定的な資金調達環境もあわせて構築。

# セグメント別 営業利益の四半期推移

～手数料引き下げの中、証券関連事業は前四半期と同水準で推移～ (単位:百万円)

	2009年3月期			2010年3月期	
	前第2四半期 (2008年7～9月)	前第3四半期 (2008年10～12月)	前第4四半期 (2009年1～3月)	当第1四半期 (2009年4～6月)	当第2四半期 (2009年7～9月)
アセットマネジメント	2,193	※1 ▲517	586	1,940	183
ブローカレッジ & インベストメントバンキング	※2 1,265	※2 233	※2 826	※2 3,055	※2 2,929
ファイナンシャル・サービス	382	358	377	158	146
住宅不動産関連	498	103	※3 ▲529	▲119	※4 ▲467
システムソリューション	▲137	98	▲160	▲196	▲155

※1 SBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有するVSN株式評価損14億円など、営業投資有価証券 評価損23億円を計上

※2 SBI証券の完全子会社化に伴い新たに発生したのれんの償却が含まれます。(2009年3月期2Q:698百万円、2009年3月期3Q以降:1,048百万円)

※3 連結子会社のセムコーポレーション(SBIホールディングスに加えSBIキャピタル運営のSBI ValueUp Fund 1号を通じて保有)において不動産評価損245百万円、貸倒引当金繰入457百万円を計上。

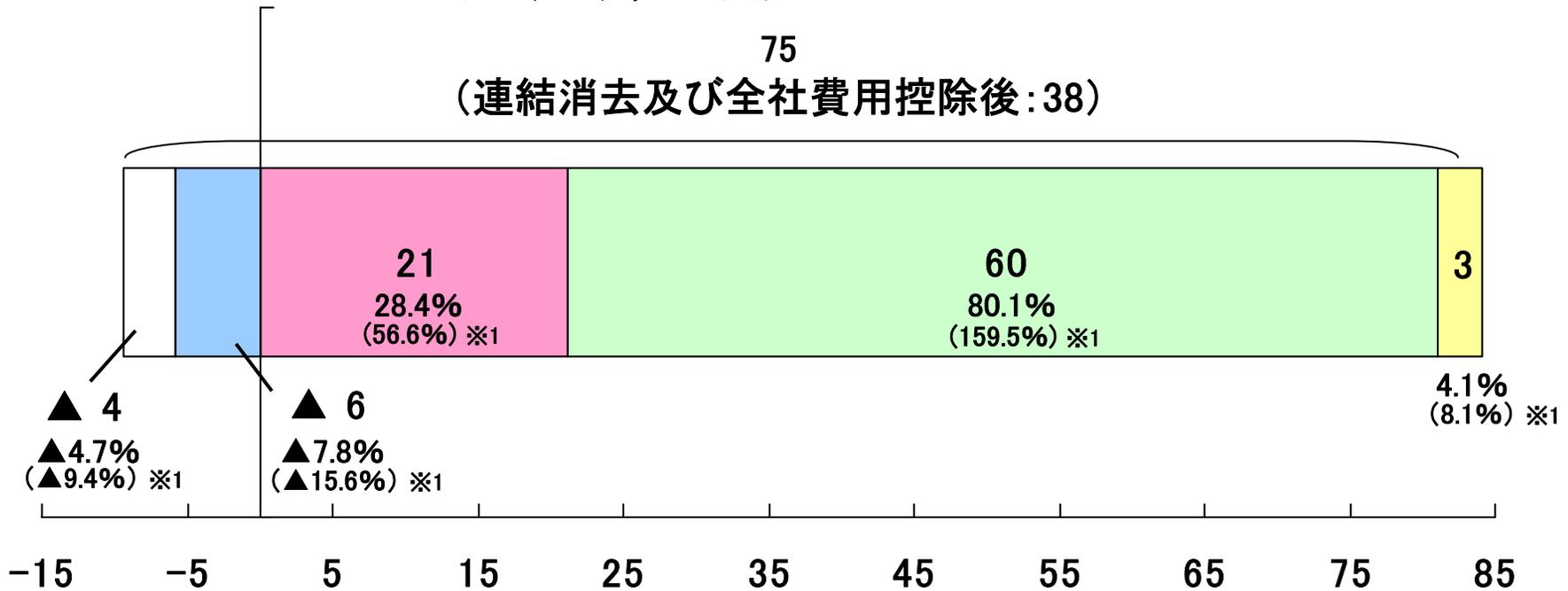
※4 SBIホールディングスにおいて、たな卸不動産評価損 393百万円、セムコーポレーションにおいて貸倒引当金繰入 120百万円を計上。

# 営業利益の構成比較

- アセットマネジメント
- ブローカレッジ&インベストメントバンキング
- ファイナンシャル・サービス
- 住宅不動産関連
- システムソリューション

(単位:億円)

2010年3月期  
2Q累計 営業利益



連結消去及び全社費用 ▲37億円 (▲99.2%) ※1  
 【内訳】 連結消去 12億円  
 全社費用 25億円(人件費7億円、地代家賃3億円、ほか支払手数料等)

※1 括弧内の比率は、連結消去及び全社費用控除後の営業利益に対する構成比率

※2 億円未満を四捨五入

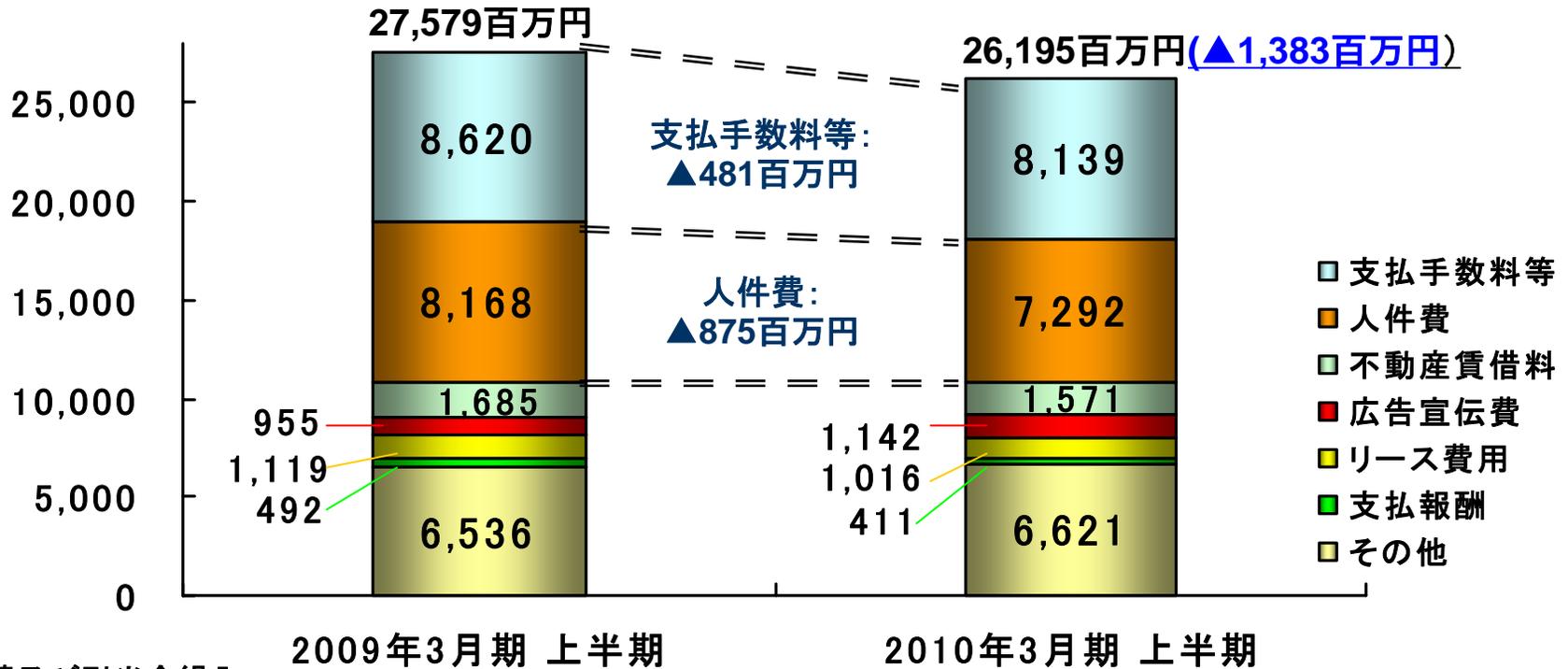
# 販売費及び一般管理費の推移(連結)

08年10月より各社で経費削減担当者を設置し経費削減を強化  
販売費及び一般管理費は、前年同期比で789百万円の減少に

	2009年3月期 上半期(08年4-9月)	2010年3月期 上半期(09年4-9月)	前年同期比 増減額
販売管理費合計	31,916	31,126	▲789

(単位: 百万円)

販売管理費(償却費及び引当金繰入を除く)



償却費及び引当金繰入

{ のれん償却、固定資産償却費  
貸倒引当金繰入 他 }

4,337百万円

4,931百万円(+593百万円)※

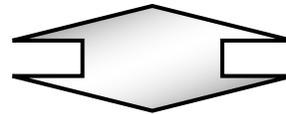
※ 08年8月のSBI証券完全子会社化に伴い新たに発生したのれん償却を含む

# 社債の償還について

## 直近に償還を終えた社債

	金額(億円)	償還日
SBIホールディングス 無担保普通社債	300.0	2009年9月25日
『第1回 SBI債』(ユーロMTN)	45.0	2009年10月22日
『第3回 SBI債』(ユーロMTN)	55.0	2009年10月23日

みずほコーポレート銀行等からの融資と自己資金にて全て償還済



➤ 2009年9月末現預金残高(連結ベース): 1,174億円

➤ ユーロMTN※

発行総額: 500億円 (10月28日発行の100億円含む)

未発行枠: 300億円 ➡ 今後機動的に債券発行し、安定資金を確保

**財務健全性は引き続き堅持**

※2009年10月に300億円増枠し、発行可能限度額は現在800億円

## (2) 主要ビジネスラインの概況

# アセットマネジメント事業

2010年3月期 第2四半期累計  
売上高 121億円(前年同期比 39%増)  
営業利益 21億円(同 16%減)

## 主な連結子会社等

- SBIインベストメント
- SBIキャピタル
- SBIキャピタルソリューションズ
- SBIアセットマネジメント

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

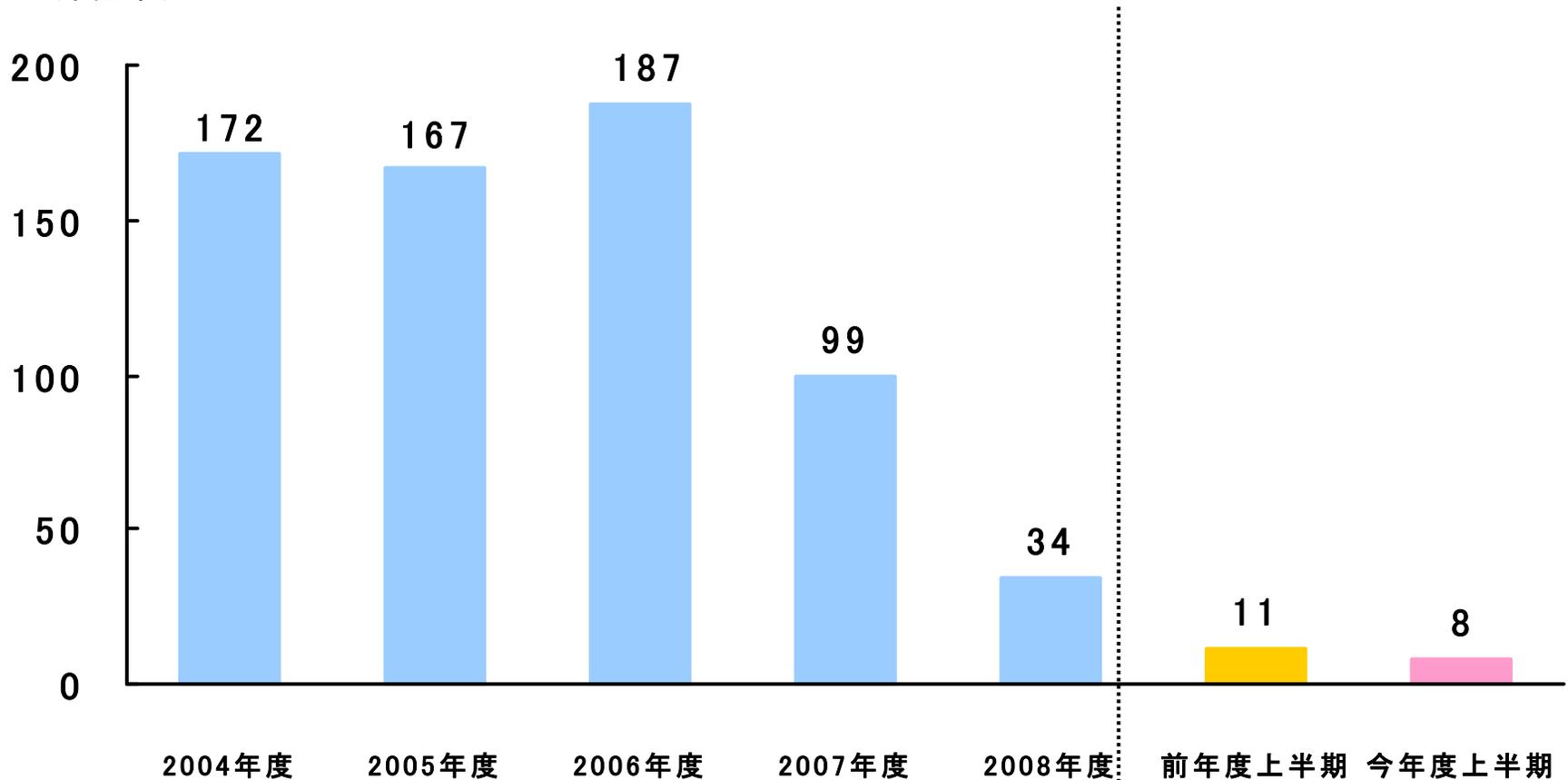
# アセットマネジメント事業のハイライト

- I 国内IPO件数が伸び悩み、同業他社ではジャフコが第2四半期累計で約18億円の営業赤字を計上するなど厳しい事業環境が続く中、収穫期にあり多額の含み益を有するNew Horizon Fund は、投資先企業が増資予定のため売却を第3四半期以降に延期したことや、市況動向を見ながら慎重に売却を実施したことにより、当第2四半期(7月～9月)の営業利益貢献額は6億円、当第2四半期累計(4月～9月)では17億円の貢献となり、当社アセットマネジメント事業の当第2四半期累計の営業黒字は21億円(前年同期比16%減)となった。
- II 投資実行額は当第2四半期(2009年7月～9月)に145億円。8月にはベトナムのティエン・ホン銀行の新株発行増資を引き受け、発行済株式総数の20%を取得。アジアの成長力をSBIの成長力へつなげるべく、海外の有望企業に対しても引き続き積極的に投資をしていく。
- III 9月29日にHIKARIプライベート・エクイティが運営するファンドの業務執行権を譲り受け、10月1日には同じくベンチャーファンドを運営するトランスサイエンスの株式を譲り受けた。運用資産の中にはクオーク・ファーマシューティカルズ社などの優良銘柄が含まれており、今後の収益貢献が期待できる。

# 国内の新規上場会社数の推移

2008年度の上場会社数は2007年度をさらに大きく下回る34社で着地。  
今年度上半期では、前年同期を下回る8件となり、低調に推移している。

(単位:社)



出所:各取引所

# アセットマネジメント事業における IPO・M&A実績

国内のIPOマーケットは低調に推移しているが、  
中国などの経済成長著しい新興国に積極的な投資をした成果が結実しつつある

	事業開始から 2008年3月期まで	2009年3月期 通期実績	2010年3月期 上半期実績
IPO・M&A社数	111	0	※ 3

上半期には以下の3社がIPO・M&Aに至っております

6月23日	GCL Solar Energy Technology Holdings Inc.	(M&A) ※
6月30日	China Cord Blood Services Corporation	(M&A)
7月29日	BBMG	(香港) ※

※ LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド) に組入れられている銘柄からのExit社数(2社)を含みます。  
上記3社のうち、GCL Solar Energy Technology Holdings Inc.とBBMGは2号ファンドからの投資です。

# 継続的に収益に貢献するNew Horizon Fund(1号ファンド)

- 比較的簿価の低いNew Horizon Fundは、中国株式市場が大きく回復する中で、継続して保有株の売却を実施
- 2009年度1-2Q累計で**63億円の株式売却**を行い**17億円の営業利益**を計上
- 上半期に売却予定であった投資先企業の増資予定により、売却が第3四半期以降に延期され、売却額が当初想定より下振れ。今下半期はさらに売却を進める

## New Horizon Fund(1号ファンド)の保有株式売却額 (単位:百万円)

2010年3月期	Meifeng	Zoomlion	Goldwind	Kingsoft	合計
第1四半期	-	865	1,615	1,436	3,917
第2四半期	1,005	916	184	267	2,372
上半期合計	1,005	1,781	1,799	1,703	6,289

この環境下でも当社持分で**約56億円の含み益**※を有しており、  
最良の売却タイミングを見計らって利益極大化を図る

# 主要VCとの業績比較

## JAFCOと当社アセットマネジメント事業の 2010年3月期第2四半期累計業績

(単位: 億円、%)

	売上高	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	121	+39.1	21	▲15.9
JAFCO (※自己持ち分方式)	72	▲49.2	▲18	- (注2)

### <参考: 2009年3月期通期業績>

	売上高	前期比 増減率	営業利益	前期比 増減率
SBI アセットマネジメント事業	160	▲72.5	26	▲84.3
JAFCO (※自己持ち分方式)	214	▲46.8	▲94	- (注3)

(注1) JAFCOは自己持ち分方式で開示、当社は決算に採用しているファンド連結後の数値

(注2) 前年同期の営業利益は16億円となっております。

(注3) 2009年3月期の営業利益は▲42億円となっております。

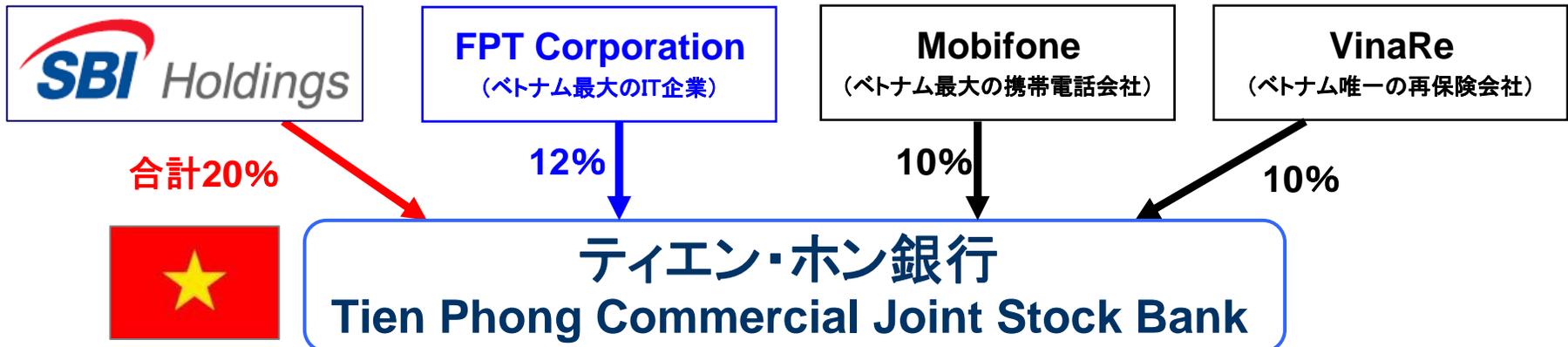
(注4) 億円未満を四捨五入して表示しております。

# 2009年8月ベトナムの商業銀行に20%出資

～成長ポテンシャルの高いベトナム銀行業界に進出～

SBIグループと投資ファンドを共同運営しているFPT Corporation等を主要株主とする銀行の新株発行増資を引き受ける認可を受け、SBI Ven Holdings, Pte. Ltd. 及びSBIグループ運営ファンドを通じて合計で同行発行済み株式の20%を取得

## 主要株主



2008年5月設立。資本金1兆2500億ベトナムドン(約60億円)

ハノイ市、ホーチミン市を中心に個人ならびに法人向け銀行業務を展開

- 約8,600万人の人口に対して49行※しか商業銀行がないベトナムにおいて高い成長ポテンシャル
- 設立初年度である2008年12月期に黒字化達成
  - 税引き後利益(2008年5月の開業後8ヶ月間): 2.8百万USD
- 2009年12月期1-3Q(実績)は税引き後利益7.3百万USDを記録し、大幅に利益を拡大
- FPT等の技術力を活用して注力するオンラインバンキング事業に対してSBIグループのノウハウ等を提供

※ベトナム中央銀行(The State Bank of Vietnam)より集計

# 2010年3月期 第2四半期の投資実行額

～ 金融環境を好機と捉え、積極的な投資を継続 ～

単位:百万円  
(投資会社数)

	投資実行額			
	当2Q (7月～9月)	当上期累計 (4～9月)	(参考) 前上期累計	(参考) 前通期累計
【ファンドによる投資分】	13,867 (43社)	29,214 (77社)	40,053 (61社)	82,013 (105社)
内 株式等	3,163 (28社)	9,431 (53社)	11,502 (30社)	26,277 (57社)
内 その他 (社債等)	10,704 (15社)	19,783 (24社)	28,551 (31社)	55,736 (48社)
【直接投資分】	679 (2社)	1,789 (5社)	10,663 (10社)	13,165 (13社)
内 株式等	679 (2社)	689 (4社)	10,583 (9社)	11,224 (11社)
内 その他 (社債等)	—	1,099 (1社)	80 (1社)	1,940 (2社)
【合計】	14,547 (45社)	31,003 (82社)	50,716 (71社)	95,179 (118社)
【比較:JAFCO】	9,750 (37社)	11,125 (60社)	23,027 (64社)	32,546 (106社)

注) 1社に対し各第1、第2四半期にわたって複数回投資実行した場合は、累計において1社とカウントし重複を排除しています。  
(データ出所:各社開示資料より当社にて集計)

# グループ運用資産総額の状況

2009年9月末現在5,434億円(住宅不動産関連セグメント等を含む)

## プライベート・エクイティ等 2,587億円

### 〔IT・バイオ等〕 合計 1,266

インターネット	38
ブロードバンド・メディア	563
モバイル	280
バイオ・その他 ※1	385

〔環境・エネルギー ※2〕 85

〔直接投資〕 241

### 〔バイアウト・メザニン〕 合計 344

バリュウアップ	184
メザニン ※2	160

### 〔海外〕 合計 652

中国・香港・その他 ※2	343
ベトナム	82
インド	95
ハンガリー ※2	132

## 〔投資信託等〕 2,268億円

投資信託	440
投資顧問	1,809
投資法人	18

## 〔不動産等〕 579億円

開発物件	239
稼働物件	341

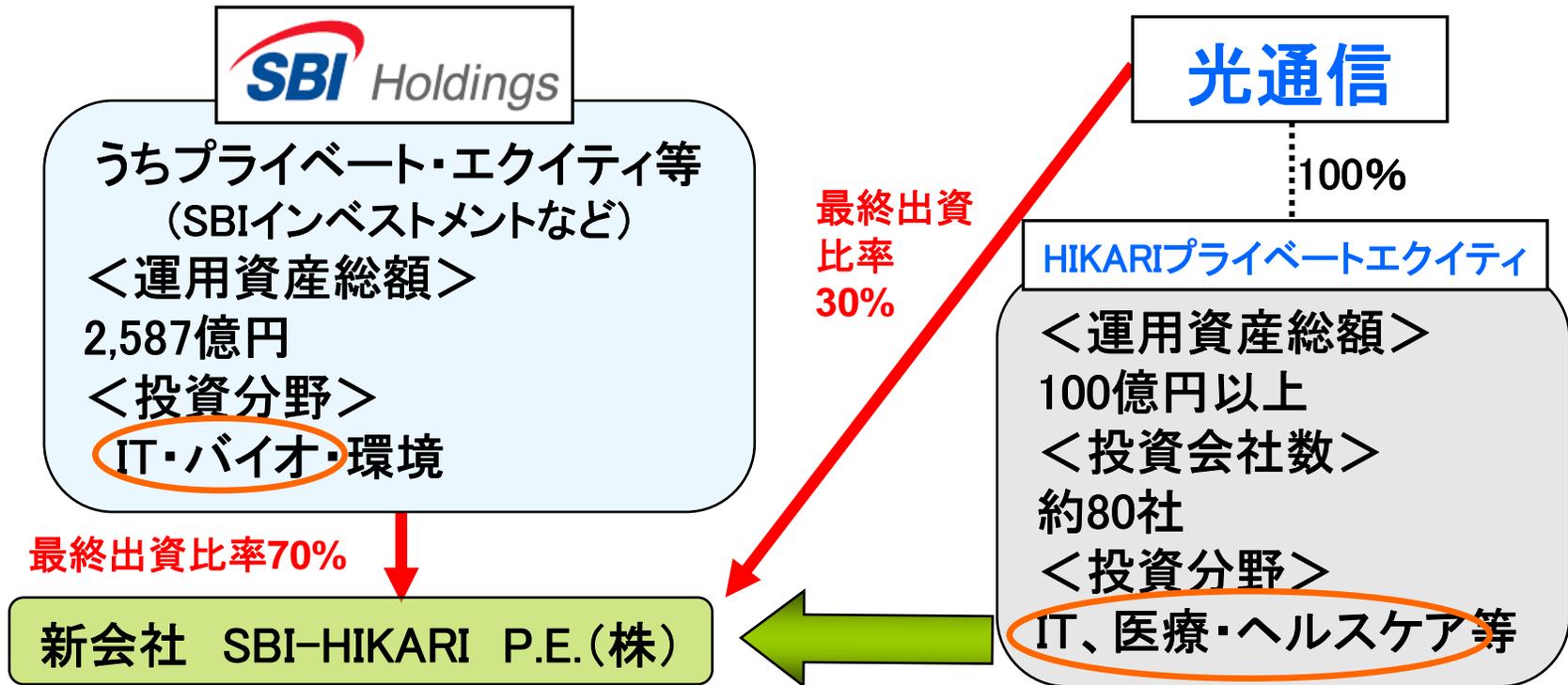
不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2009年9月末の時価純資産、その他ファンドは2009年9月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載。億円未満は四捨五入。

※1 9月29日にHIKARI プライベート・エクイティから業務執行権を譲り受けたファンドを含みます。

※2 決算期を迎えていないものについては、出資約束金額ベースで算出。

# (株)HIKARIプライベート・エクイティのVC事業を譲受

(株)光通信から子会社HIKARIプライベート・エクイティ(HPE)のVC事業の一部をファンド業務執行権等とともに譲り受け、共同で運営・展開



09年9月、ファンド業務執行権とともに業務譲受

YiCha Online Corporation(中国モバイル検索エンジンの運営)など、IT・バイオ分野の有望なポートフォリオカンパニーを多く引き継ぐことで、既存ファンドとの相乗効果が見込まれる

## 証券関連事業

2010年3月期 第2四半期累計  
売上高 266億円(前年同期比 1%減)  
営業利益 60億円(同 29%増)

### 主な連結子会社等

- SBI証券
- SBIジャパンネクスト証券(持分法適用)
- SBIリクイディティ・マーケット

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

## I 圧倒的顧客基盤を有するSBI証券

前年同期においては、売却したE\*TRADE Koreaの業績(営業収益:32億円、営業利益:11億円)が含まれていたため営業収益は前年同期比8.0%減の245億円となったが、引き続きFX取引が好調に推移していることから、営業利益は前年同期比17.1%増の75億円となった。

なお前年同期においてE\*TRADE Koreaの業績を考慮しない場合、連結の営業収益は前年同期比4.4%増、営業利益は同41.9%増となる。

- 2009年9月末総口座数 195万口座超
- 2010年3月期第2四半期累計では、個人株式委託売買代金シェアは34.6%、個人信用取引委託売買代金シェアは38.7%と引き続き同業他社を圧倒

## II 営業開始(2008年11月17日)から短期間で収益に大きく貢献している

### SBIリクイディティ・マーケット

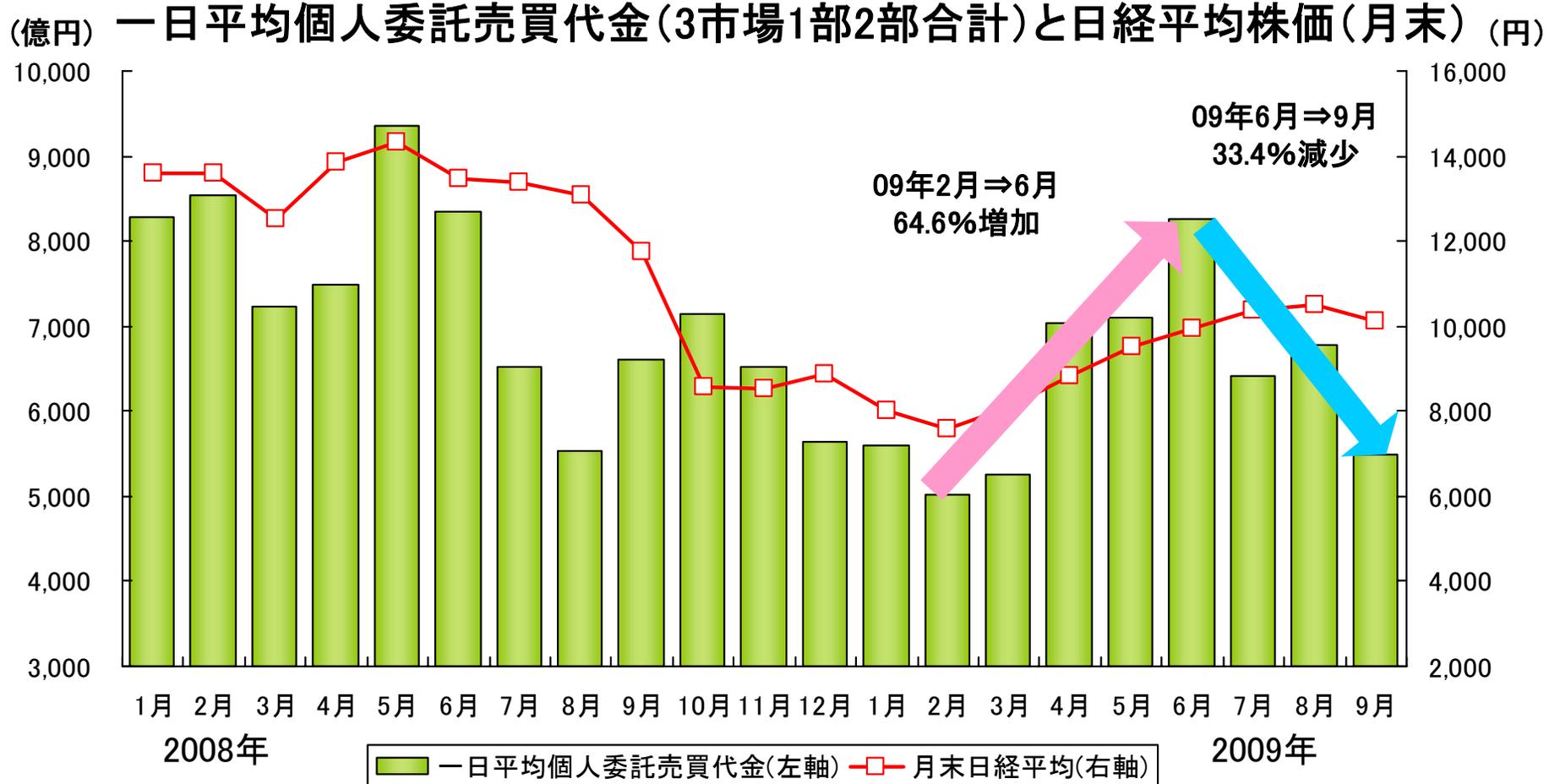
営業開始から短期間で取引を急拡大させ、2010年3月期第2四半期累計で売上高は56.1億円、営業利益は17.0億円。

- SBI FX  $\alpha$  の2009年9月の月間売買代金は4兆6,809億円となり、引き続き高水準を維持
- 2009年8月3日より日興コーディアル証券が接続
- 今年度に入り新たに3行(みずほコーポレート銀行、香港上海銀行、カリヨン銀行)がカウンターパーティーとして参加し計15金融機関に。他にも4金融機関と交渉中。

## III 昼間取引の開始により順調に取引量を拡大しているジャパンネクストPTS

ジャパンネクストPTSにおける取引量は順調に拡大し、2009年9月の1日平均売買代金は90億円超となり過去最高を記録。

# 最悪の状態を脱するも 本格的な回復には至っていない日本の株式市場



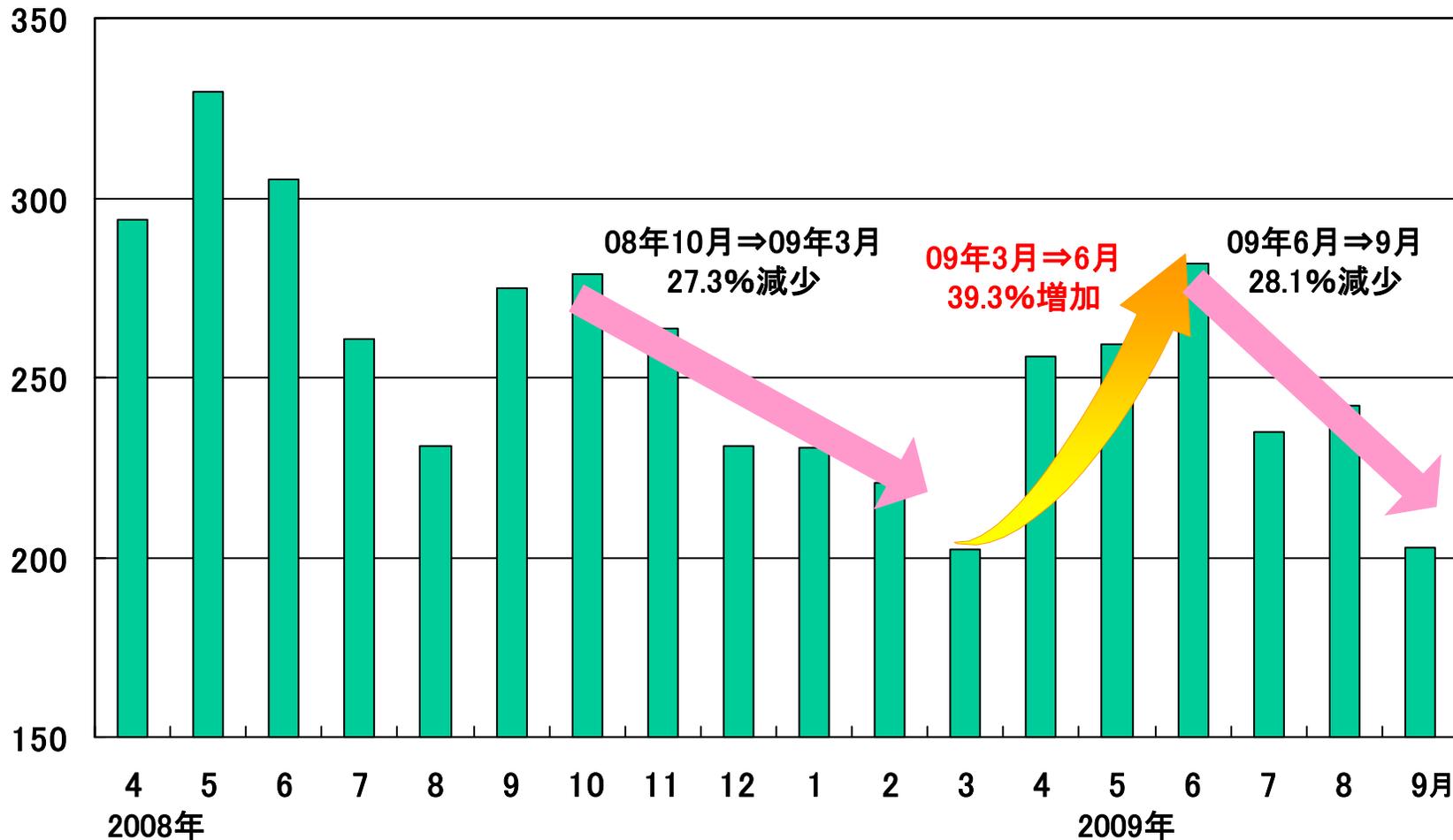
- ・ 一日平均個人委託売買代金は2月の5,014億円から4ヶ月連続で上昇し、6月には8,252億円となったが、7月以降は低迷し9月には5,495億円まで減少
- ・ 日経平均は2月の7,568円から9月には10,133円へ

出所: 東証開示資料より当社作成

# SBI証券の1日平均株式委託売買代金推移

2008年10月以降減少が続いていた1日平均株式委託売買代金は、  
株式マーケットの復調にあわせて2009年4月に増加に転じたが、7月以降は低迷

(単位:10億円)



# 2010年3月期第2四半期累計 SBI証券連結業績

2009年3月期第2四半期まではE\*TRADE Koreaの業績が含まれており、前年同期比減収となっている。

(単位:百万円、%)

	2009年3月期 2Q累計※1 (2008年4月～2008年9月)	2010年3月期 2Q累計 (2009年4月～2009年9月)	前年同期比 増減率
営業収益	26,658	24,533	▲8.0
純営業収益	23,699	22,611	▲4.6
営業利益	6,406	7,499	+17.1
経常利益	6,445	7,423	+15.2
四半期純利益	※2 8,902	4,398	▲50.6

※1 E\*TRADE Koreaの業績を含む

(営業収益 3,171百万円、純営業収益2,866百万円、営業利益 1,121百万円、経常利益1,135百万円、四半期純利益818百万円)

※2 E\*TRADE Korea 株式の売却に伴い、2009年3月期第2四半期に特別利益99億円を計上。

なお、E\*TRADE Korea株式売却による特別利益を除くと、2009年3月期第2四半期累計の連結四半期純利益は3,002百万円となり、当第2四半期累計の連結四半期純利益は前年同期比46.5%増となる。

# ＜参考＞2010年3月期第2四半期累計 E\*TRADE Koreaの業績・売却益控除後連結業績試算

(単位:百万円、%)

	2009年3月期 2Q累計※ (2008年4月～2008年9月)	2010年3月期 2Q累計 (2009年4月～2009年9月)	前年同期比 増減率
営業収益	23,488	24,533	+4.4
純営業収益	20,834	22,611	+8.5
営業利益	5,285	7,499	+41.9
経常利益	5,309	7,423	+39.8
中間期純利益	2,417	4,398	+81.9

※ E\*TRADE Koreaの業績ならびにE\*TRADE Korea株式売却に伴う特別利益等控除後

# 2010年3月期第2四半期累計 SBI証券単体業績

FX取引の拡大によるトレーディング収益の増加等により、  
増収・営業増益となる

(単位:百万円、%)

	2009年3月期 2Q累計 (2008年4月～2008年9月)	2010年3月期 2Q累計 (2009年4月～2009年9月)	前年同期比 増減率
営業収益	23,412	24,359	+4.0
純営業収益	20,795	22,474	+8.1
営業利益	5,297	7,468	+41.0
経常利益	5,321	7,396	+39.0
四半期純利益	※1 11,190	4,387	▲60.8

※1 E\*TRADE Korea 株式の売却に伴い、2009年3月期第2四半期に特別利益142億円を計上。  
なお、E\*TRADE Korea株式売却による特別利益を除くと、2009年3月期第2四半期累計の四半期純利益は2,763百万円となり、当第2四半期累計の四半期純利益は前年同期比58.8%増となる。

# SBI証券 四半期業績(連結)推移



(単位:百万円、%)

	2009年3月期			2010年3月期		
	第2四半期 (2008年7~9月)	第3四半期 (2008年10~12月)	第4四半期 (2009年1~3月)	第1四半期 (2009年4~6月)	第2四半期 (2009年7~9月)	前四 半期比 増減率
営業収益	12,736	10,568	10,316	12,448	12,084	▲2.9
純営業収益	11,120	9,456	9,034	11,516	11,095	▲3.7
営業利益	2,527	1,610	1,633	3,781	3,718	▲1.7
経常利益	2,423	1,563	※3 1,382	3,862	3,560	▲7.8
四半期純利益	※1 6,094	※2 435	810	2,300	2,098	▲8.8

※1.E\*TRADE Korea 株式の売却に伴い、特別利益99億円を計上

※2.特別損失として商号変更費用約3.7億円、システム統合関連費用約4.6億円を計上

※3.営業外利益として投資事業組合運用益0.2億円を計上する一方、営業外損失として投資事業組合運用損2.4億円を計上

# 主要オンライン証券の

## 2010年3月期第2四半期累計・連結業績比較



- 2009年3月期第2四半期にはE\*TRADE Koreaの業績(営業収益3,171百万円、営業利益1,121百万円)が含まれることから、連結では前年同期比で減収となっているものの、FX取引の好調から営業増益。また単体では増収・営業増益を達成。
- 営業収益、営業利益ともに同業他社を大きく上回る

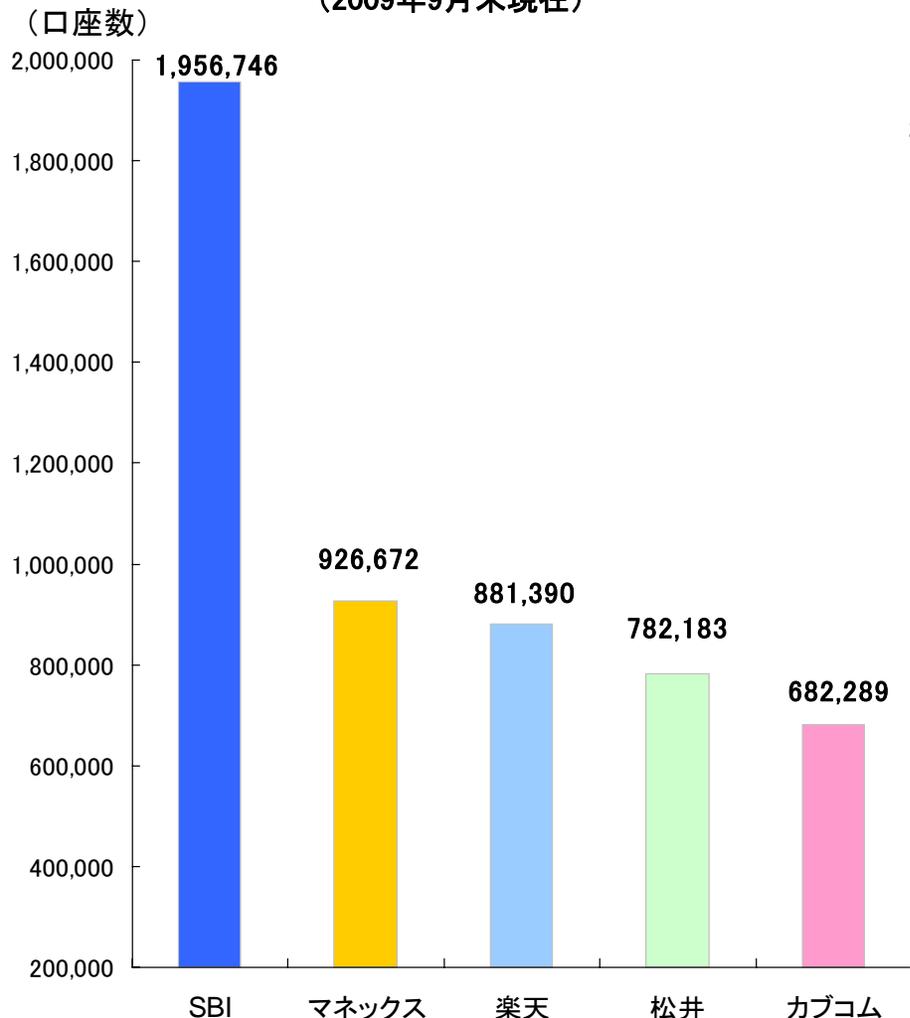
### 主要オンライン証券各社の2010年3月期第2四半期累計連結業績 (単位:百万円、%)

	営業収益	前年同期比 増減率	営業利益	前年同期比 増減率
SBI証券連結	24,533	▲8.0	7,499	+17.1
うち、SBI証券単体	24,359	+4.0	7,468	+41.0
楽天	12,246	▲0.7	3,123	+19.6
マネックス	11,380	▲18.4	2,842	▲28.9
カブドットコム(非連結)	8,131	▲6.6	2,849	▲13.9
松井	13,386	▲10.9	6,380	▲1.6

# 主要オンライン証券の口座数比較

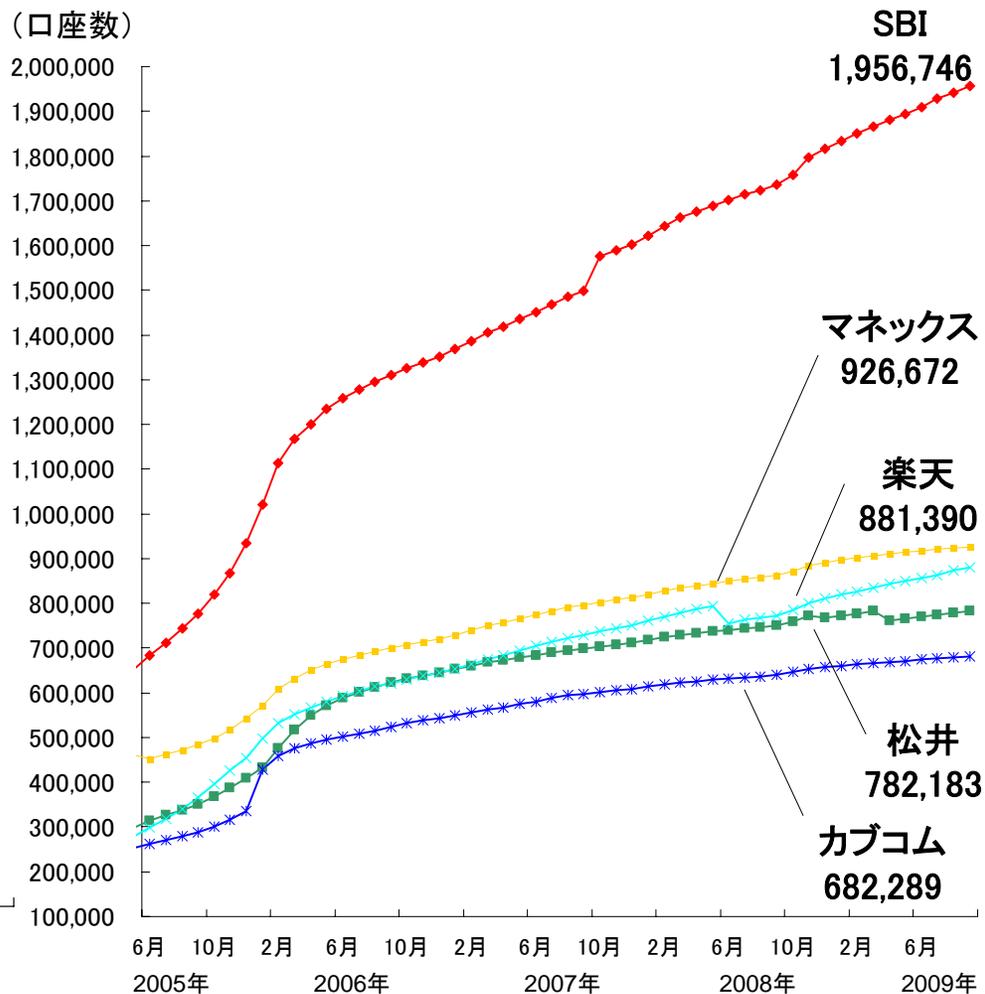
## 主要オンライン証券5社の口座数

(2009年9月末現在)



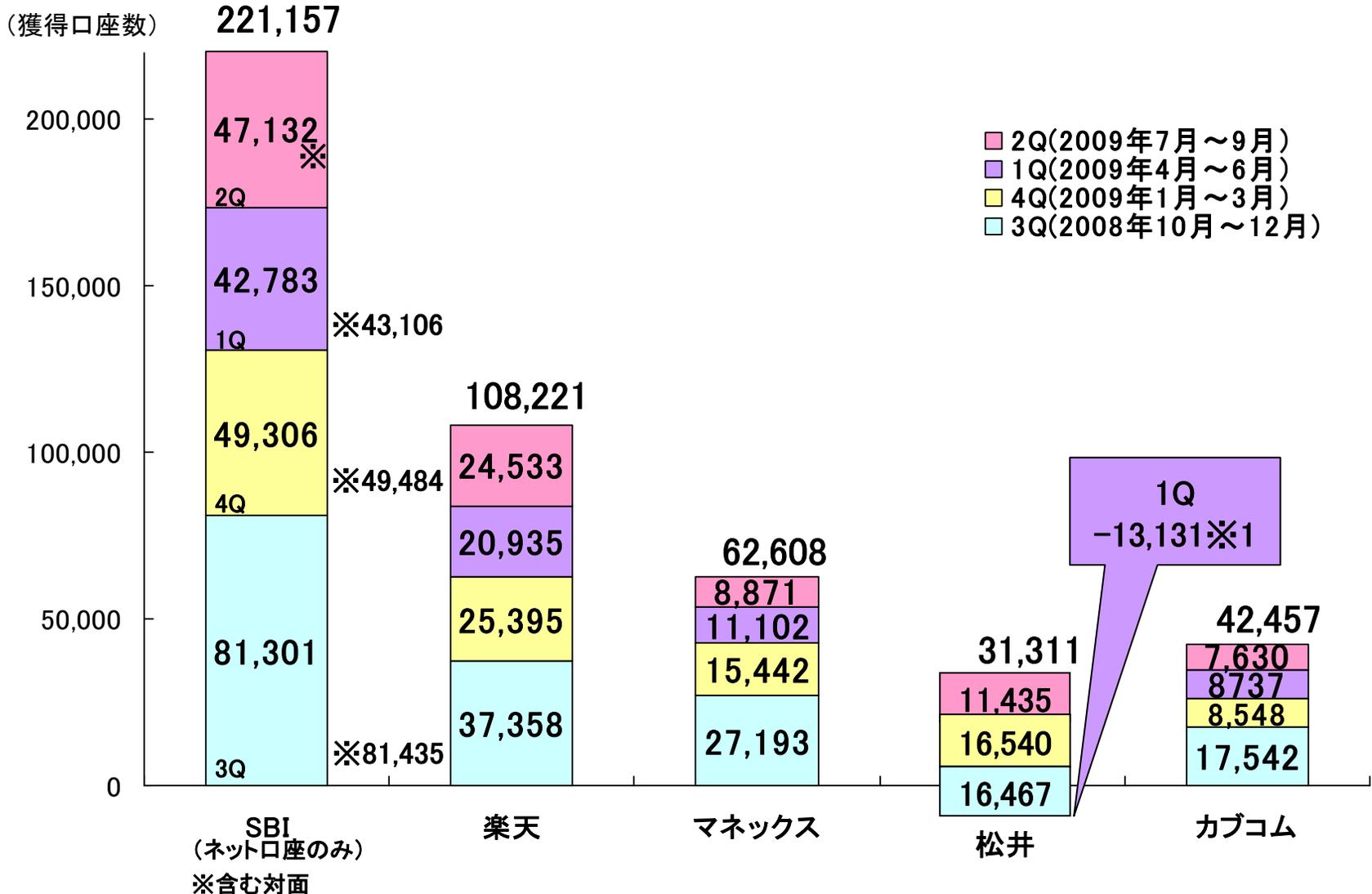
## 主要オンライン証券5社の口座数推移

(2009年9月末現在)



# 主要オンライン証券の獲得口座数比較

2008年10月～2009年9月の1年間の獲得口座数



# 3大証券会社との株式委託売買代金比較

## 各社の株式委託売買代金の推移

2010年3月期2Qにおける委託シェア

〔大和及び日興コーデリアルは2010年3月期1Qの数値〕

**SBI**  
**14,102 (10.3%)**

〔2010年3月期1Qシェア: 11.6%〕

野村 12,698 (9.3%)

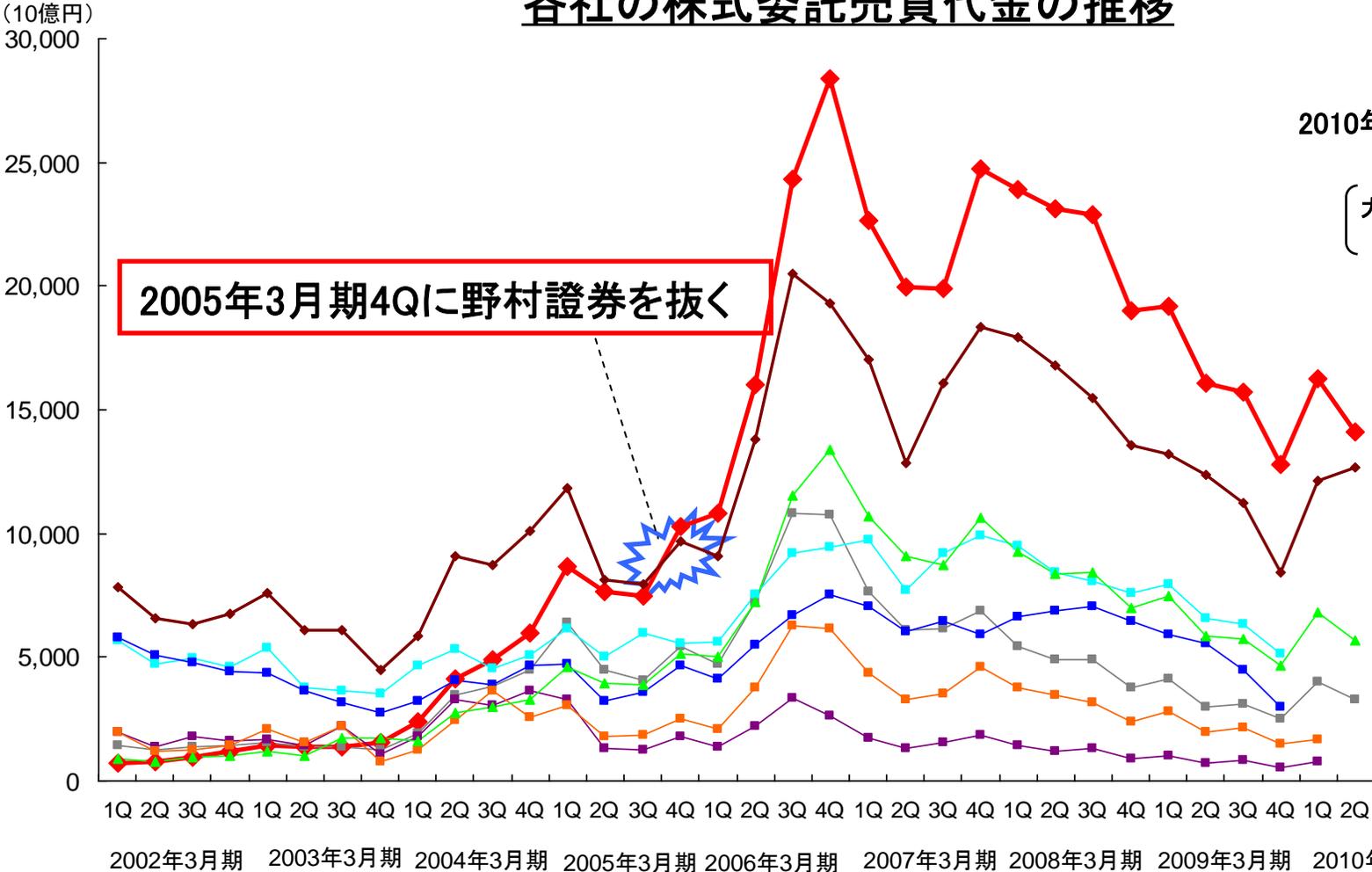
大和SMBC※  
楽天 5,682 (4.1%)

日興シティ※  
松井 3,304 (2.4%)

大和 1,671 (1.2%)

日興コーデ<sup>レ</sup> 764 (0.5%)

2005年3月期4Qに野村證券を抜く

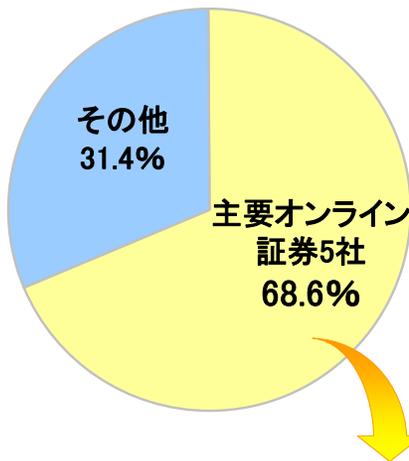


出所: 証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成 (SBI証券分には海外投資家からの注文を含みます)

※大和SMBC、日興シティは本年度より非開示

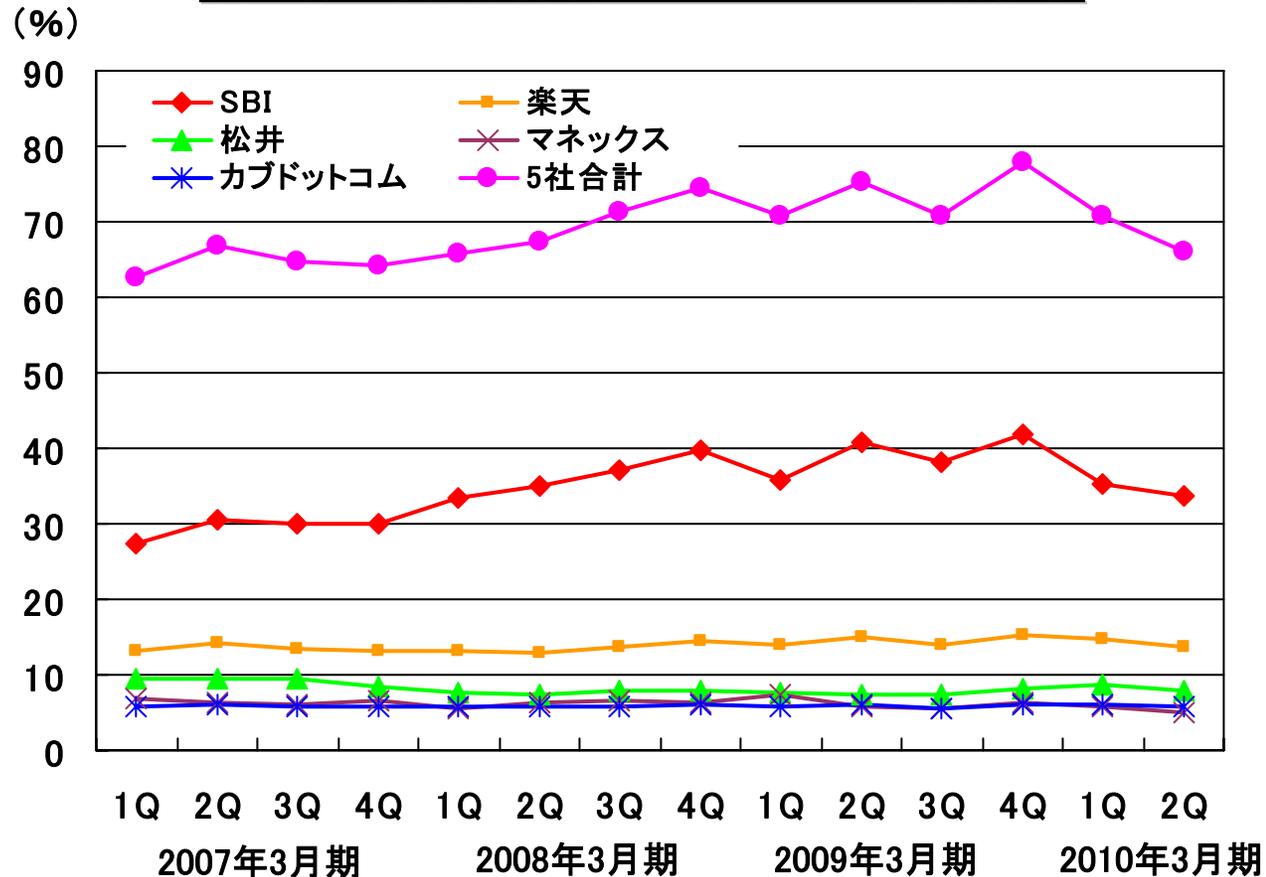
# 主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

## 2010年3月期 2Q累計シェア (2009年4月～2009年9月)



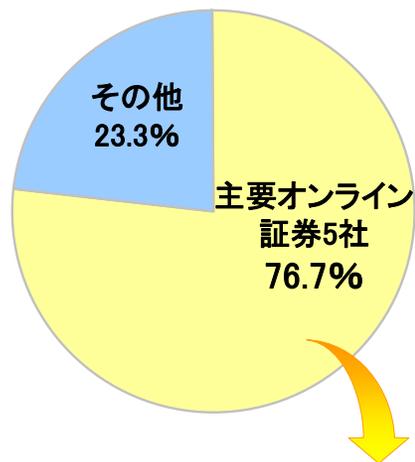
SBI証券	34.6%
楽天証券	14.2
松井証券	8.3
カブドットコム	5.8
マネックス	5.5

## 個人株式委託売買代金シェアの四半期推移



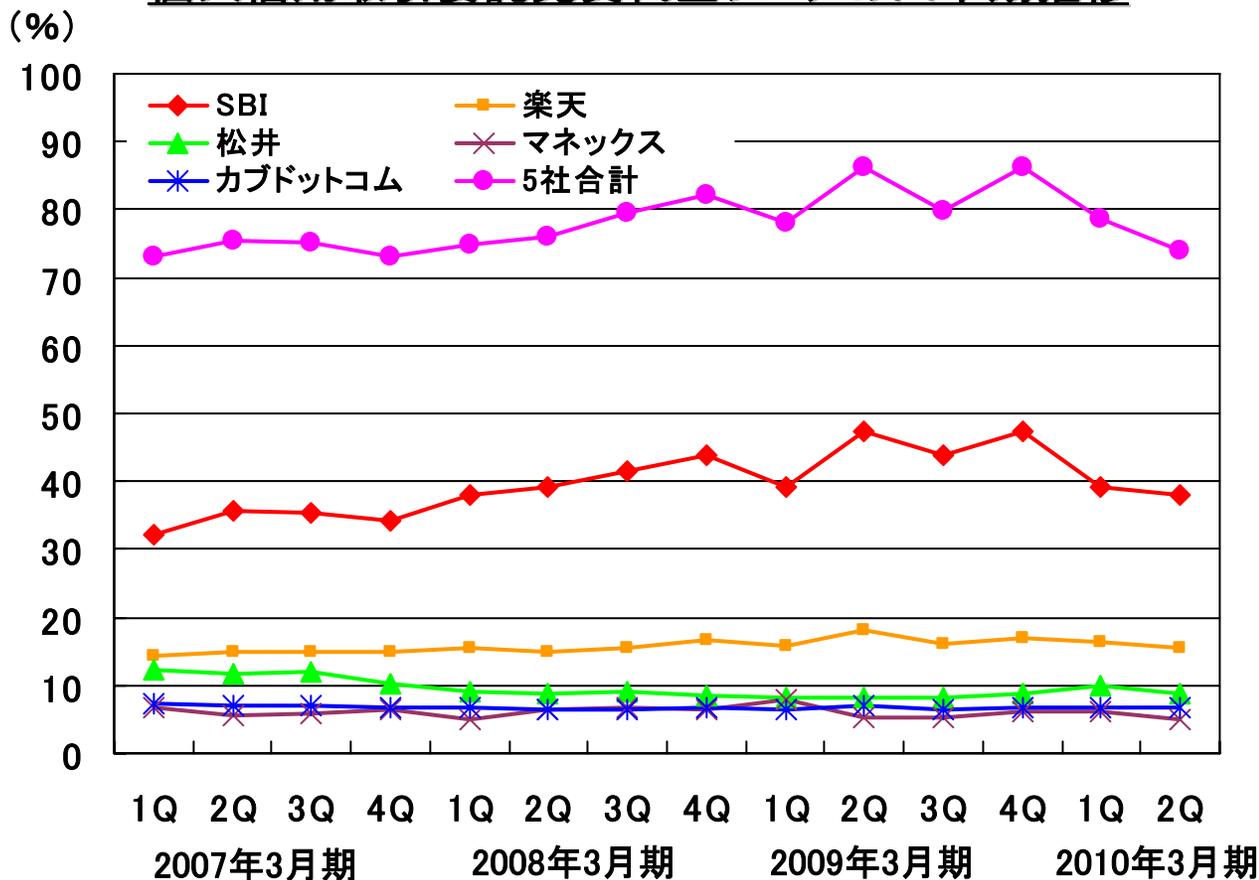
# 主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

## 2010年3月期 2Q累計シェア (2009年4月～2009年9月)



SBI証券	38.7%
楽天証券	16.1
松井証券	9.4
カブドットコム	6.8
マネックス	5.6

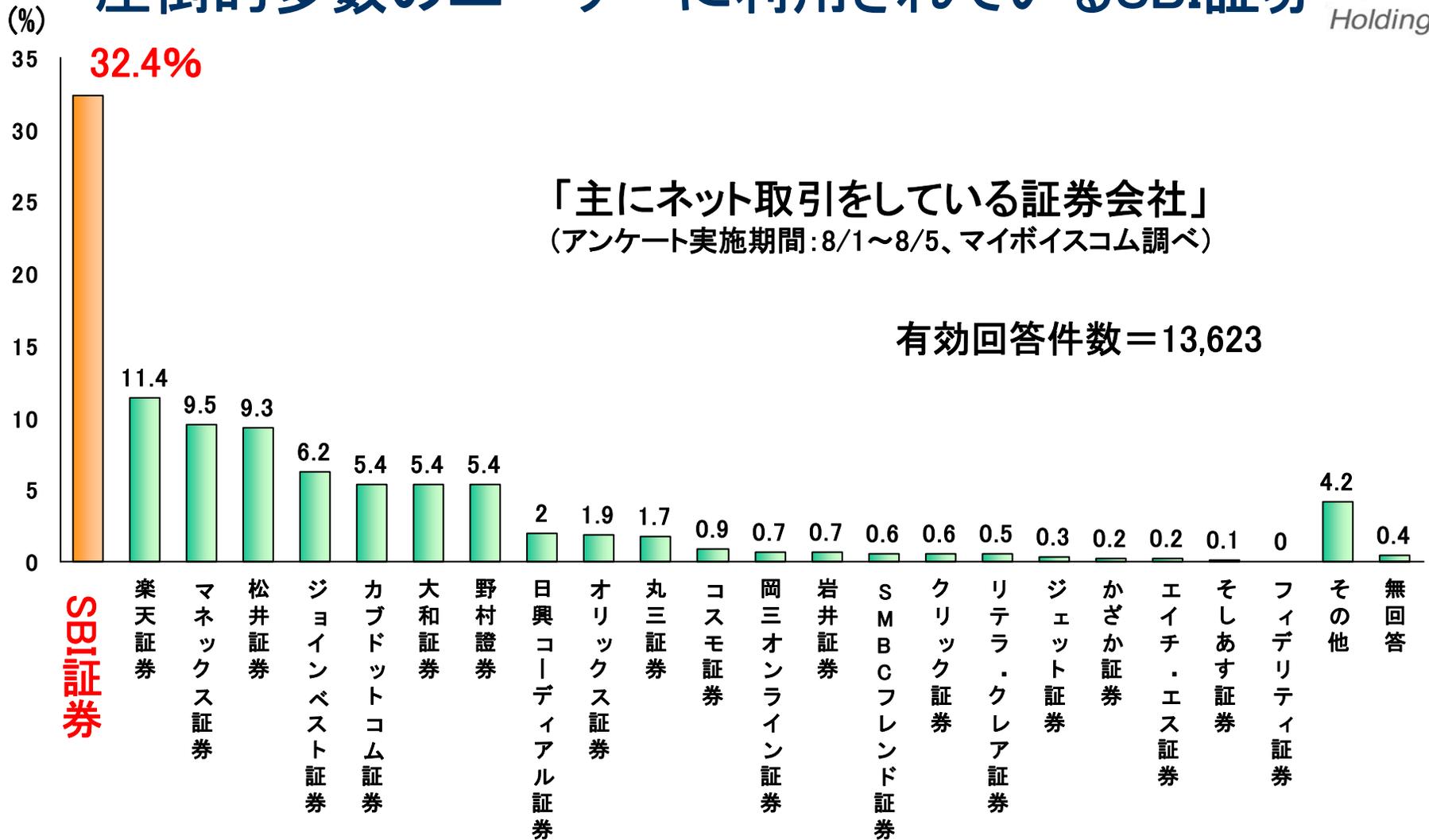
## 個人信用取引委託売買代金シェアの四半期推移



出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
 ※ 個人株式委託売買代金は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

SBI証券はインターネット取引のみで算出

# 圧倒的多数のユーザーに利用されているSBI証券



利用者数においても数多のネット証券の中で突出

## 【SBI証券における手数料引き下げの影響】

8月10日約定分より、本年7月末時点の手数料と比較して  
最大27.5%引き下げ

# 手数料一部引き下げによるベースの変動

(ベース: 委託手数料 ÷ 委託売買代金)

<現物取引>  
【スタンダードプラン】

1注文の約定代金	09年8月10日約定分から	09年7月末時点手数料
10万円以下の場合	145円	200円
10万円を超え 20万円以下の場合	194円	250円
20万円を超え 50万円以下の場合	358円	450円
50万円を超え 100万円以下の場合	639円	800円
100万円を超え 150万円以下の場合	764円	950円
150万円を超え 3,000万円以下の場合	1,209円	1,500円
3,000万円超の場合	1,277円	1,575円

## 手数料改定に伴うベースの変動

2009年3月期通期

3.1ベース



2010年3月期第1四半期

3.7ベース



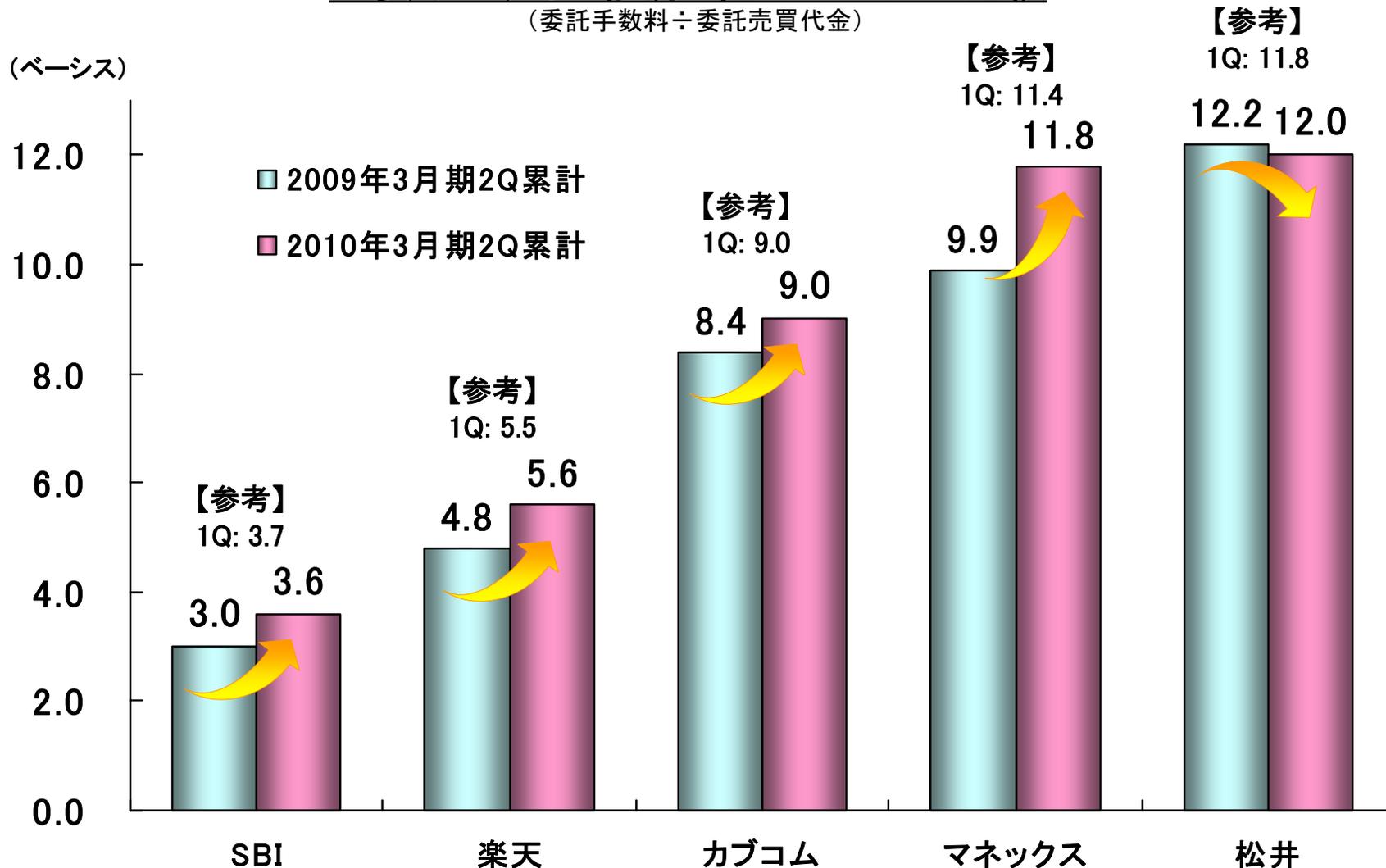
2009年9月(単月)

3.5ベース

# 主要オンライン証券のベースス比較

## 主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料÷委託売買代金)



出所: 各社決算資料、月次開示資料等より当社作成  
委託手数料は決算短信より単体数値を使用  
SBI証券はインターネット部門のみの数値を使用

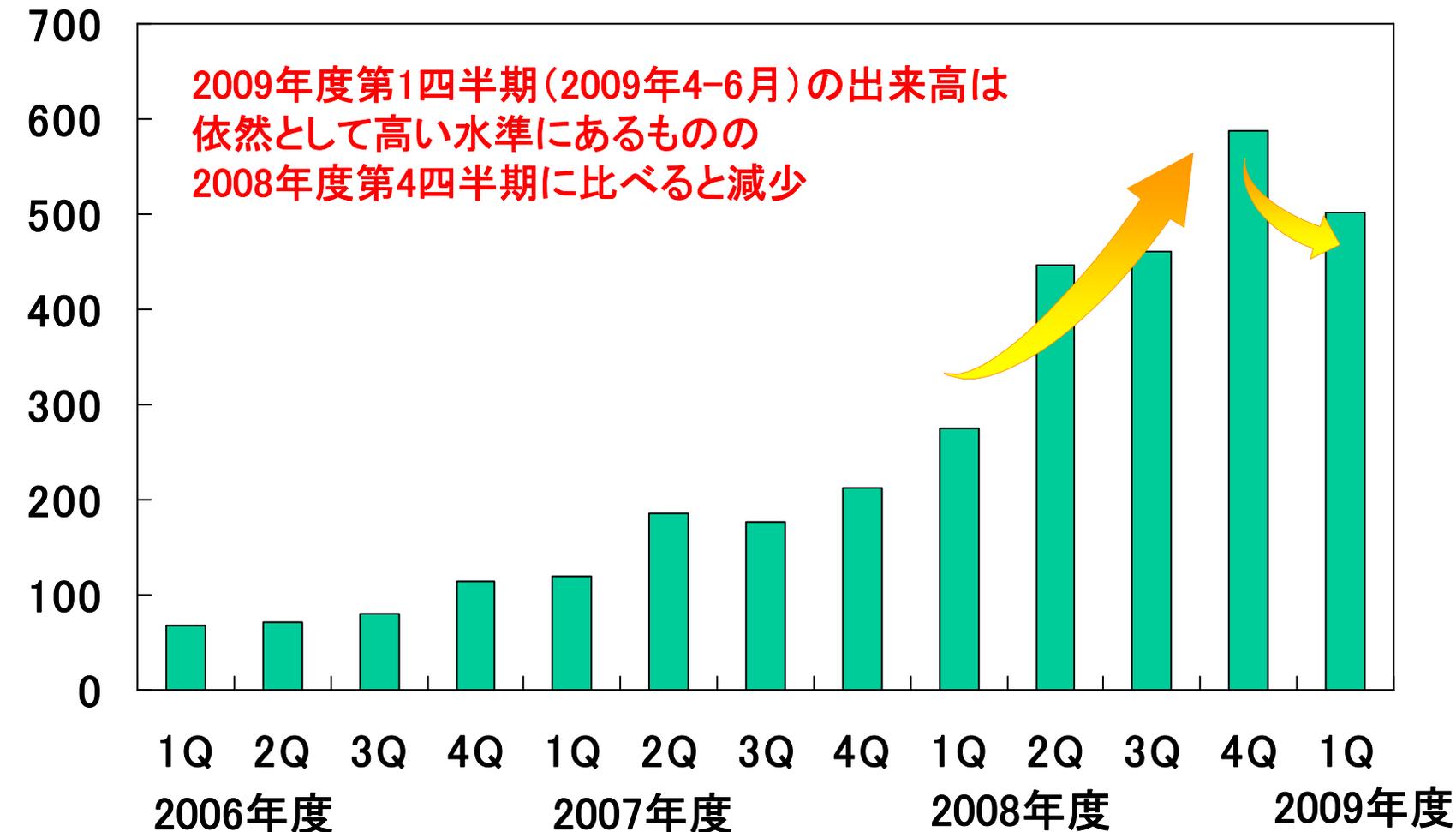
# 【 SBIリクイディティ・マーケット】

(2008年11月17日営業開始)

# 急拡大してきた外国為替証拠金(FX)取引市場

## 店頭外国為替証拠金取引の出来高推移

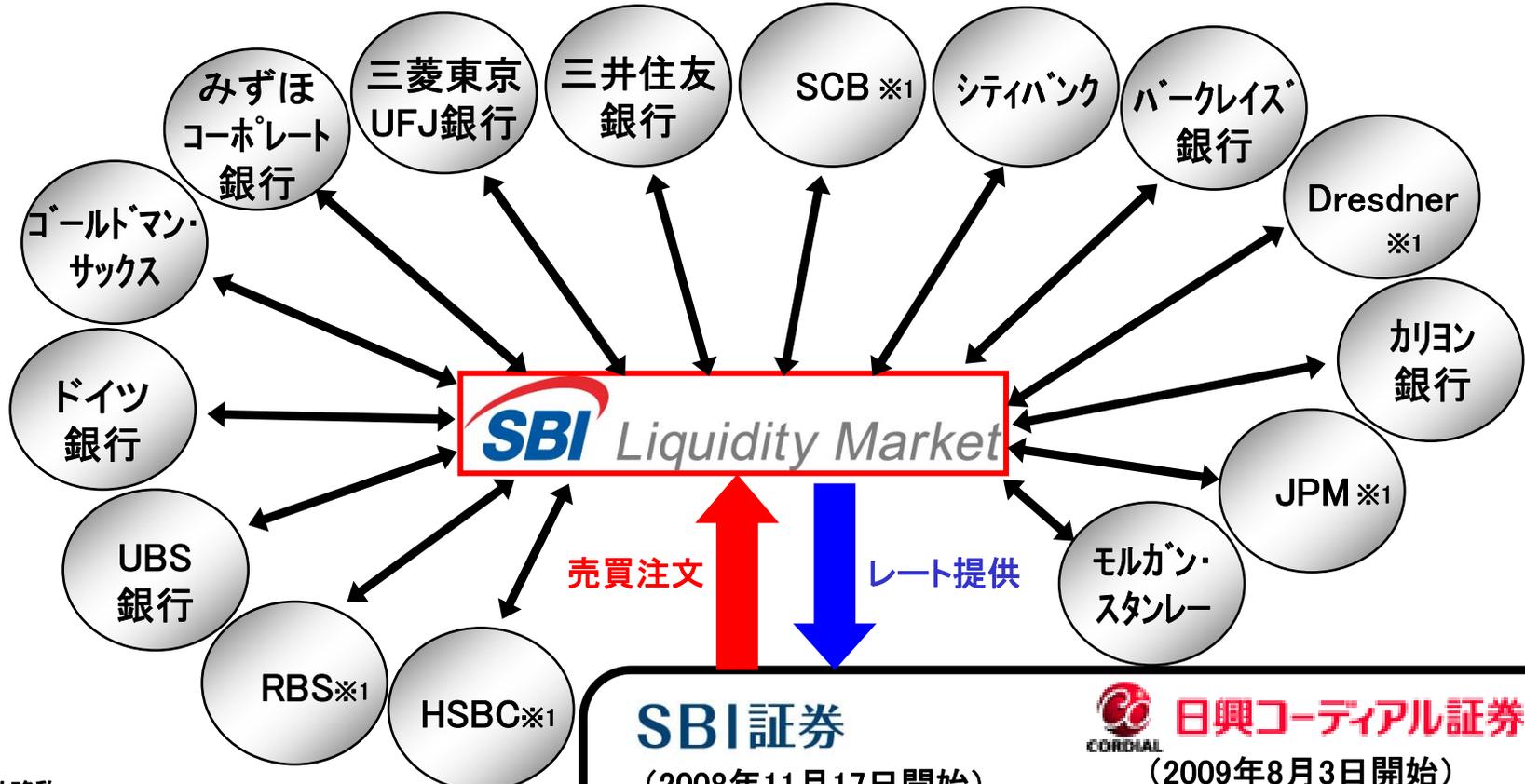
(兆円)



# 欧米主要金融機関及び国内大手銀行計15行※の カウンターパーティー群により、安定した取引機会を提供

(※ この他、4金融機関と交渉中)

今年度に入り新たに3行(みずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行)が  
カウンターパーティーとして参加



※1 各社略称  
 RBS・・・ロイヤルバンク・オブ・スコットランド  
 SCB・・・スタンダード・チャータード銀行  
 Dresdner・・・ドレスナー銀行  
 JPM・・・JPモルガン・チェース銀行  
 HSBC・・・香港上海銀行

**SBI証券**  
(2008年11月17日開始)

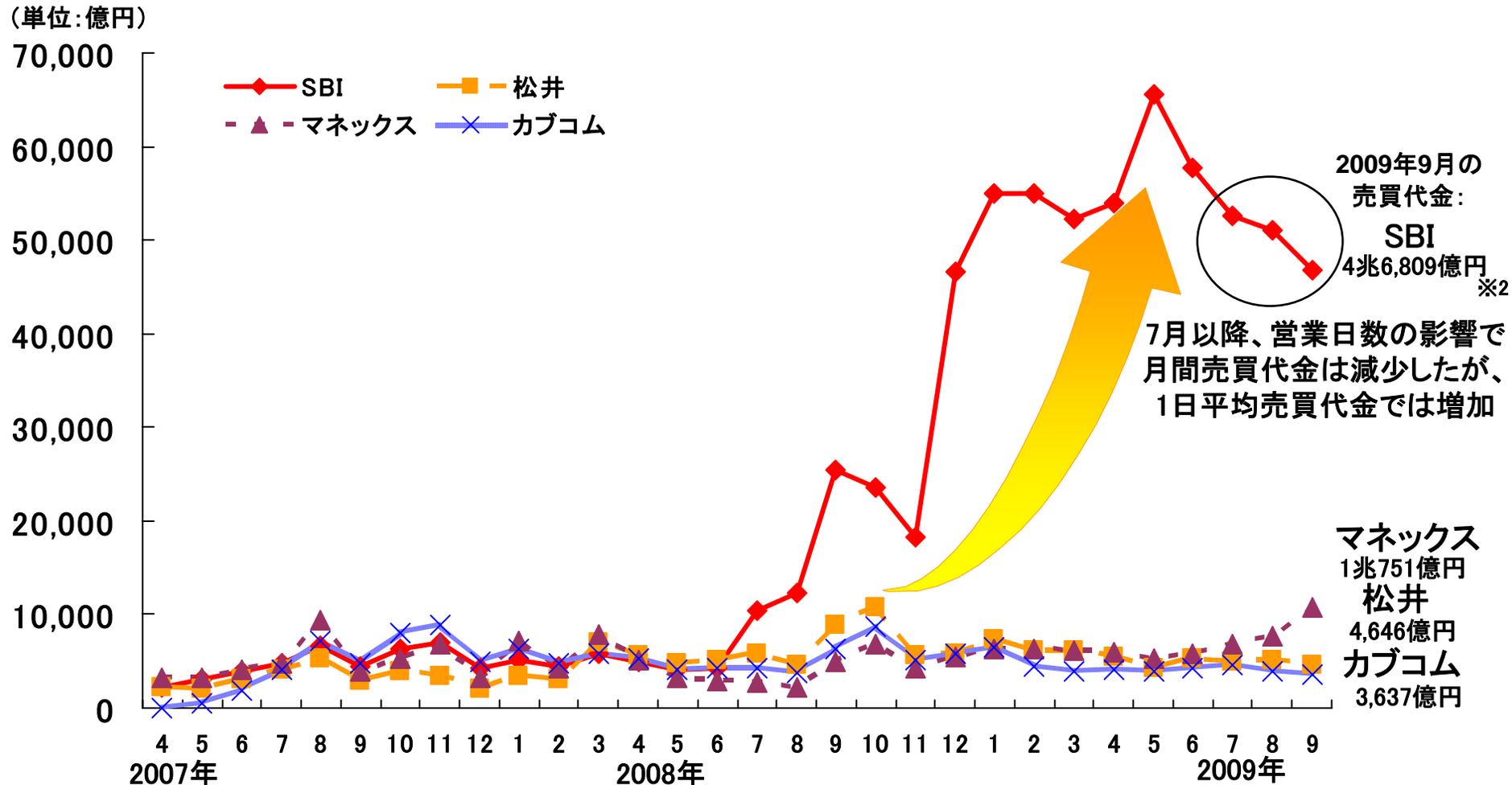
**SBI Futures**  
(2009年1月26日開始)

**日興コーディアル証券**  
(2009年8月3日開始)

**住信SBIネット銀行**  
(近日正式開始予定)

# ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引売買代金の推移

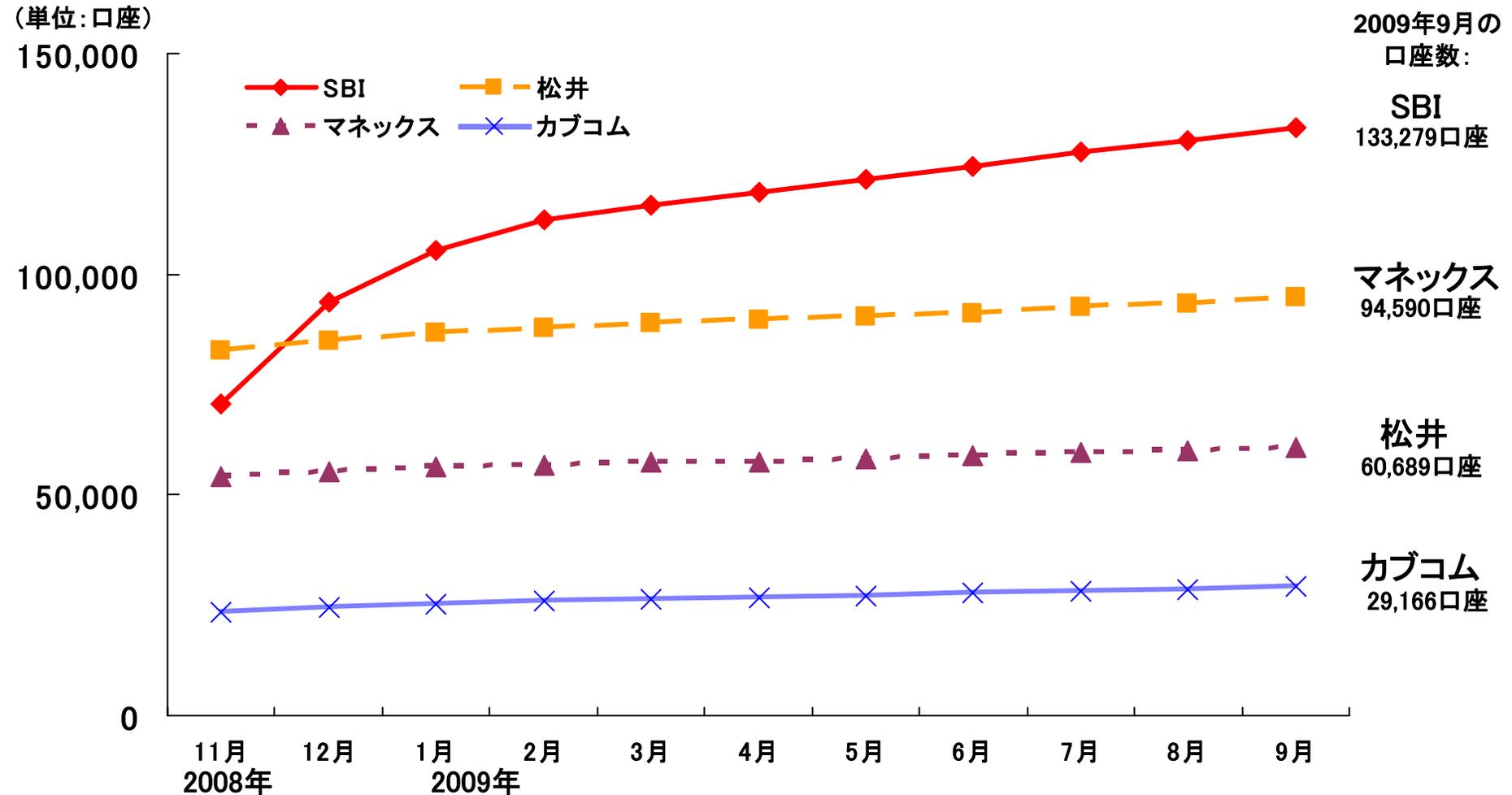
SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を拡充したことで、  
SBI証券におけるFX取引の売買代金は大きく拡大



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブコム証券の計4社  
 ※2 2008年11月～2009年2月は、『SBI FX』及び『SBI FX α』の売買代金合計

# ネット証券大手4社※1の 外国為替保証金取引口座数の推移

2008年11月17日からサービスをスタートしたSBI FX  $\alpha$  の口座数は、  
順調に増加を続けている



※1 SBI証券とデータが開示されているマネックス証券、松井証券、カブドットコム証券の計4社

出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

# 主要オンライン証券各社が提供する FX取引のサービス比較

主要オンライン証券各社の中で、最低水準のコストで最多の通貨ペアを取扱

	通貨ペア数	上段:スプレッド 下段:手数料(1万通貨取引時)		
		米ドル-円	ユーロ-円	ポンド-円
SBI(SBI FX $\alpha$ )	20	2銭	4銭	8銭
		無料		
マネックス(FX PLUS)	12	2銭	5銭	8銭
		無料		
松井(NetFx)	9	4銭	4銭	10銭
		200円		400円
カブコム	12	2銭	4銭	6銭
		200円		

※ 2009年10月28日現在  
 ※ 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
 ※ スプレッドはキャンペーン等を適用しない通常の場合

# SBIリクイディティ・マーケットは、2008年11月17日の 営業開始から短期間で、連結業績に大きく貢献する子会社に成長

## 【SBIリクイディティ・マーケットの収益貢献】

(単位: 億円)

	2009年3月期			2010年3月期		
	3Q※1	4Q	通期	1Q	2Q	累計
営業収益(売上高)	5.5	23.5	29.0	28.2	<u>27.9</u>	<u>56.1</u>
内、SBI証券の トレーディング益 (SBI証券: 営業利益)	3.5	14.9	18.3	17.9	<u>17.6</u>	<u>35.5</u>
営業利益	1.1	7.3	8.4	8.6	<u>8.4</u>	<u>17.0</u>

※1 営業期間は11月17日からの約 1.5ヶ月間

**接続する事業者の拡充により、  
更なる流動性(取引量)の拡大と収益の増加を図る**

## 【SBIジャパンネクスト証券】

(2007年8月27日営業開始)

～前期第3四半期より昼間取引を開始～

# 日本最大規模の私設取引市場に

安定的に取引量を増すジャパンネクストPTSの  
月間売買代金は、2,000億円突破も間近に

## PTS各社の月間売買代金比較('09年)

(単位:百万円)

運営会社	取引開始時期	7月(取引日数:22日)			8月(21日)			9月(19日)		
		昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)	昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)	昼間	夜間	合計 (1日平均 売買代金)
SBI ジャパン ネクスト	07年 8月	142,612	24,239	166,851 (7,584)	151,362	26,782	178,144 (8,483)	158,824	16,146	174,971 (9,209)
kabu.com	06年 9月	18,987	304	19,319	27,341	358	27,705	22,241	313	22,554
マネックス	01年 1月	—	2,350	2,350	—	3,046	3,046	—	1,842	1,842
大和	08年 8月	—	1,818	1,818	—	2,161	2,161	—	1,572	1,572
松井	08年 5月	19	—	19	9	—	9	12	—	12

9月の1日平均売買代金は  
90億円を突破

(※)売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計

なお上記は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります

シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

# ファイナンシャル・サービス事業

2010年3月期 第2四半期累計  
売上高 120億円(前年同期比 7%増)  
営業利益 3億円(同 60%減)

## 主な連結子会社等

### 【既存事業会社】

- SBIホールディングス(事業部)
- モーニングスター
- ゴメス・コンサルティング
- SBIベリトランス

### 【新規事業会社】

- 住信SBIネット銀行(持分法適用)
- SBI損害保険
- SBIアクサ生命保険
- SBIカード
- SBIカードプロセッシング(売却予定)

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

# ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

## 【既存事業】

- ① モーニングスターは、主要顧客となる金融機関の広告・販促需要の冷え込み等を背景に、連結業績は前年同期比で減収減益となったものの、前年度下半期比では営業利益、経常利益、純利益のいずれも約2倍の増益となり、回復の兆しをみせる。
- ② ゴメス・コンサルティングは、コスト削減により黒字転換を達成、売上高は前年度下半期比で増収となり、大きく回復。
- ③ SBIベリトランスは、EC市場の拡大などを背景に、トランザクション件数は前年同期比15.6%増の2,844万件と順調に増加。売上高・営業利益・経常利益において、連結で前年同期比11%超の増収増益に。
- ④ 保険見積もりやローン比較サイト等のマーケットプレイス事業は、8サイト合計の取引件数が前年同期比11.4%増の47万6千件と堅調に推移し売上増に。

## 【新規事業】

- ① 07年9月開業の住信SBIネット銀行は、預金残高8,276億円、口座数56万9千口座(09年9月末)と、計画を大きく上回って進捗。引き続き四半期ベースでの黒字化を達成し、今期の持分法投資損益(営業外損益)の大幅改善が期待される。
- ② 08年1月開業のSBI損保は、低水準の保険料やチャネルの拡充などが奏功して累計成約件数が8万件超(09年9月末)に伸長。
- ③ 08年4月開業のSBIアクサ生命は、ネット系中心の募集代理店での商品販売や知名度不足の解消などを背景に、今上半期の新規契約件数の月間平均は約1,000件。

# 2010年3月期第2四半期 上場子会社 各社業績

(単位:百万円、( )内は前年同期比増減率%)

※1	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
モーニングスター	1,154 (▲28.0)	183 (▲25.4)	238 (▲16.7)	135 (▲25.0)
ゴメス・コンサルティング	188 (▲17.2)	0 (-)※2	10 (-)※3	8 (-)※4
SBIベリトランス	2,445 (+11.4)	509 (+13.3)	512 (+13.0)	291 (+8.6)

※1 モーニングスター、SBIベリトランスは連結業績、ゴメス・コンサルティングは単体の業績を掲載しております。

※2 前年度の営業利益は▲7百万円となっております。

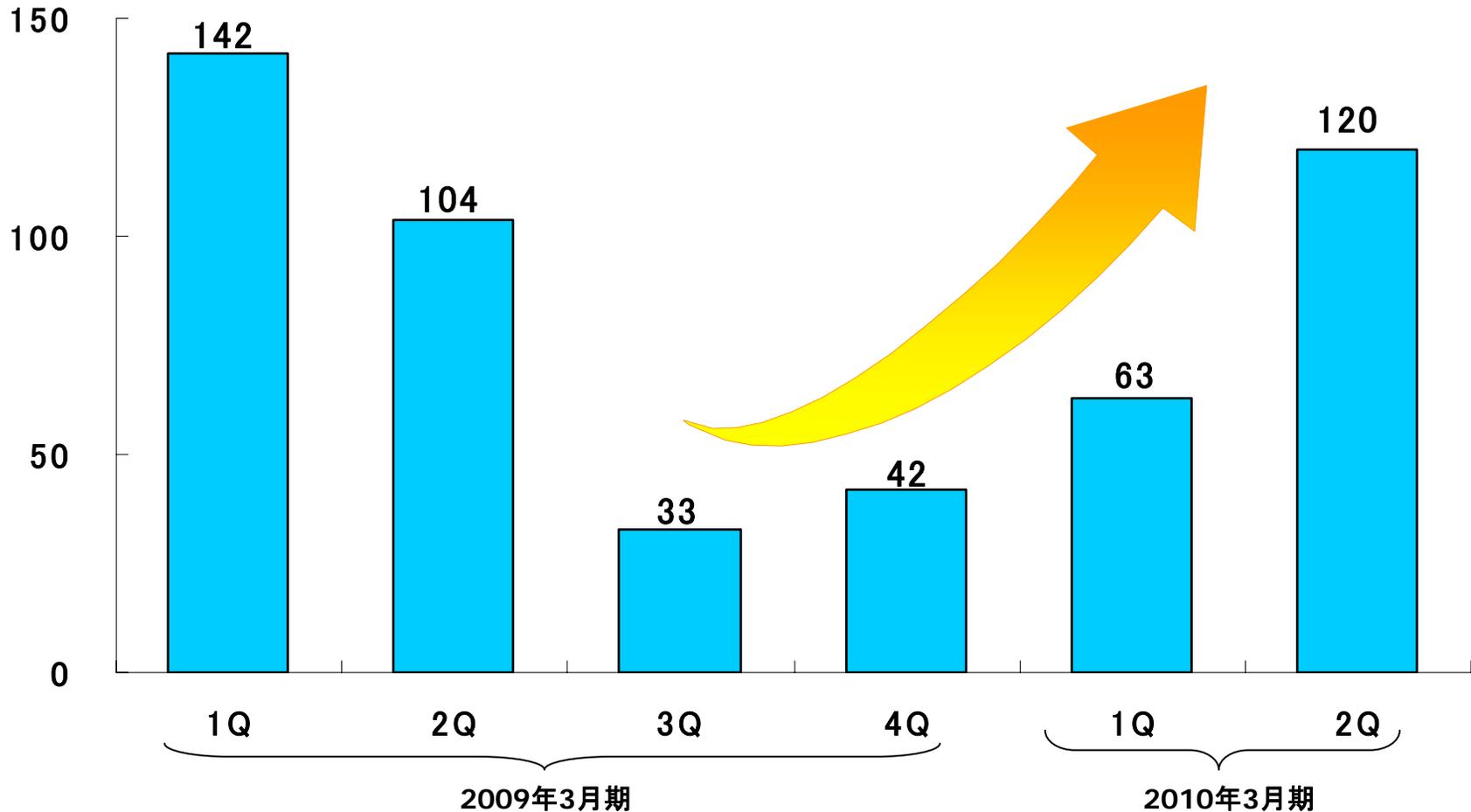
※3 前年度の経常利益は▲3百万円となっております。

※4 前年度の四半期純利益は▲2百万円となっております。

# モーニングスター 連結営業利益の四半期推移

販売管理費の縮小(前年同期比174百万円減)や、ファンド・株式の情報配信等が堅調に推移したことにより、営業利益はV字回復

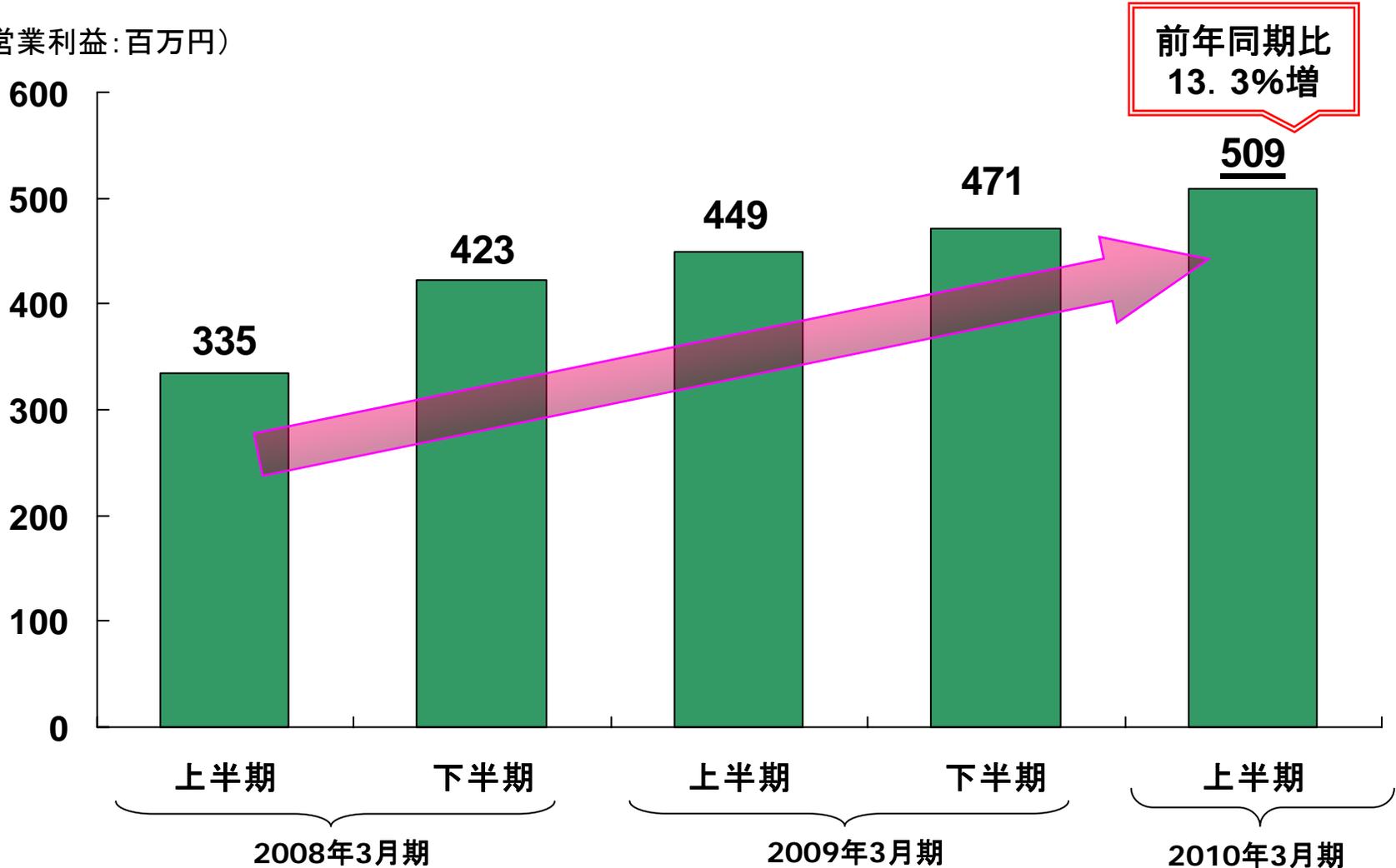
(営業利益:百万円)



# SBIベリトランス 連結営業利益の半期推移

営業利益は前年同期比13.3%増と堅調に推移、  
営業利益率は安定的に20%超で推移

(営業利益:百万円)



国内最大級の金融系比較サイト「インズウェブ」「イー・ローン」を中核とした  
 マーケットプレイス事業の取引件数は、**前年同期比11.4%増と順調に成長**



: 保険商品見積もりサイト「インズウェブ」: 損保23社・生保20社参画

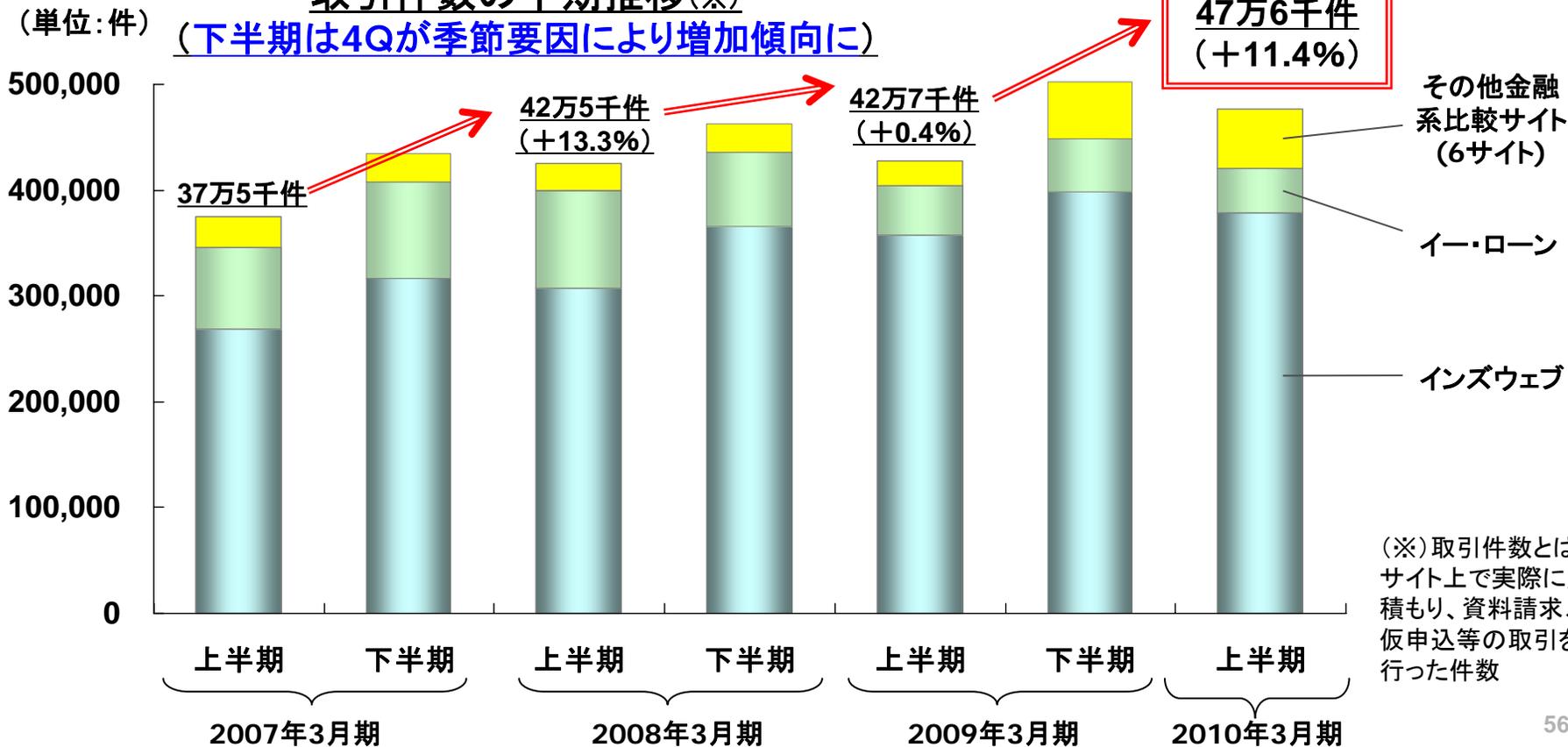


: ローン商品比較検索サイト「イー・ローン」: 金融機関数67社、ローン商品数552

その他金融系比較サイト(計6サイト): 証券会社比較、FX取引会社比較、おくるまりース見積もり等

取引件数の半期推移(※)

(下半期は4Qが季節要因により増加傾向に)



(※)取引件数とは、  
 サイト上で実際に見積もり、資料請求、  
 仮申込等の取引を行  
 った件数

# 【新規事業の進捗】

# 【住信SBIネット銀行】

# 順調に拡大する住信SBIネット銀行の顧客基盤



2009年9月末時点 ※確定値

口座数: 569,864口座

預金量: 8,273億円

貸出金残高: 3,196億円

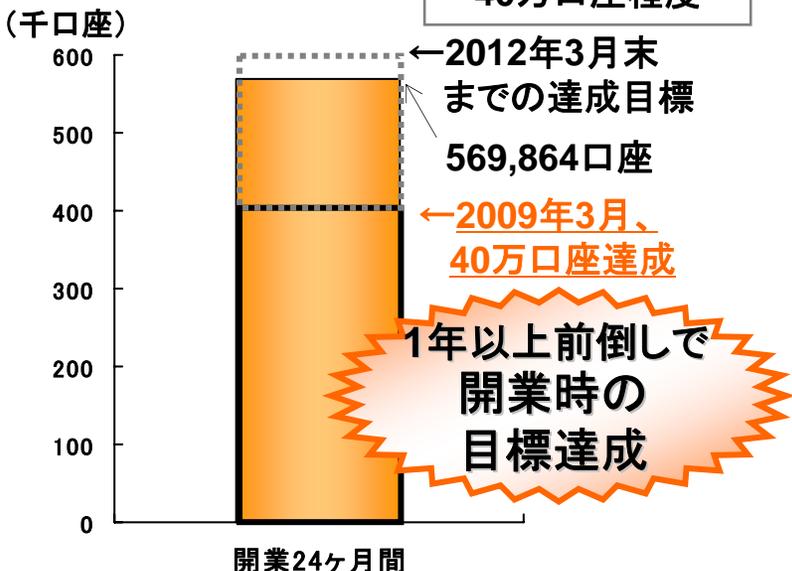
(住宅ローン+ネットローン)



## <2009年9月末での達成率>

### 口座数

開業時目標:  
2010年3月末で  
40万口座程度



次なる目標: 2012年3月末で60万口座程度

### 預金量

開業時目標:  
2010年3月末で  
7,000億円程度



次なる目標: 2012年3月末で1兆円程度

# 預金残高は開業から723日で8,000億円を突破

競争力のある金利の設定、個人顧客に対する手数料無料でのATM入出金・振込取引の提供のほか、各種キャンペーンの展開により、2007年9月24日の開業から723日で預金残高が8,000億円を突破した。

## 各行が預金残高8,000億円突破に要した日数

	開業日	預金残高が 1,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高が 8,000億円を 超えた時期 (注1)	開業からの 日数	預金残高 (注2)
イーバンク銀行	2001/7/23	2003/10/1～ 2004/3/31	801～ 983日	—	—	6,827億円
ジャパンネット銀行	2000/10/12	2002/10/1～ 2003/03/31	720～ 901日	—	—	4,405億円
ソニー銀行	2001/6/11	2002/3/1～ 2002/03/31	264～ 294日	2007/7/1～ 2007/7/31	<u>2,212～</u> <u>2,242日</u>	13,348億円
<b>住信SBIネット銀行</b>	<b>2007/9/24</b>	<b>2007/11/19</b>	<b>57日</b>	<b>2009/9/15</b>	<b><u>723日</u></b>	<b>8,273億円</b>

(注1) 各行公表資料より、預金残高がそれぞれの金額を超えたことが判明した時期

(注2) イーバンク銀行・ソニー銀行・住信SBIネット銀行は2009年9月末の残高、ジャパンネット銀行は2009年6月末の残高

# 着実に積み上がる住宅ローン実行累計額

～住宅ローン取扱い開始から**719日**で、同実行累計額**3,000億円突破**～  
 (2009年9月11日)

(ジャパンネット銀行、イー・バンク銀行は住宅ローン取扱なし)

	住信SBIネット銀行 (注1)	ソニー銀行
開業日	2007年9月	2001年6月
住宅ローン取扱い開始	同上	2002年3月
3,000億円突破に 要した日数	<b>719日</b>	<b>1931～2023日</b> (注2)

**インターネット専業銀行としては最速での到達！**

銀行開業日からの達成ペース：

2,500億円達成：639日 (約25.56日間で100億円増加のペース)

3,000億円達成：719日 (約23.96日間で100億円増加のペース)

(注1)ソニー銀行は約定返済分を反映した実行残高、住信SBIネット銀行は実行金額ベース

(注2)四半期毎の公表資料より当社にて集計、2007年9月末時点で311,492百万円。

# 当第2四半期は口座数・預金残高ともに、 他行を上回る増加ペース

## インターネット専業銀行の2010年3月期2Qの増減数比較

	2010年3月期2Qの増減数		2009年9月末
	口座増加数 (口座)	預金増加額 (百万円)	顧客あたり 預金残高 (千円) (※2) ( )内: 2009年6月末
住信SBIネット銀行	<b>84,523</b>	<b>154,891</b>	<b>1,451</b> ↑ (1,385)
ソニー銀行	13,652	3,900	1,778 ↓ (1,806)
イーバンク銀行	69,000 (※1)	▲28,000	205 ↓ (218)

第1四半期に比べ、住信SBIネット銀行の顧客一人当たりの  
預金残高は他行が減少する中、唯一増加

# 2010年3月期第2四半期も3四半期連続で 黒字達成の見込み

2010年月3月期上半期は半期ベースで十数億円の黒字化が視野に

## 【経常損失・利益の推移】(単位:億円)

2009年3月期				2010年3月期	
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
経常損失 17.8	経常損失 12.8	経常損失 7.5	経常利益 1.37	経常利益 8.56	? 11月20日発表

5億円の改善

5.3億円の改善

2009年1月に初の単月黒字化を達成。四半期ベースでも初の黒字化(当期利益:1.34億円)を達成!



### 2009年3月期 通期

経常損失: 3,687百万円

当期純損失: 3,699百万円

当社営業外損失(持分法による投資損失)として1,849百万円計上

# 競争が激化するインターネット専門銀行の中で 住信SBIネット銀行は大きく事業を拡大

「ネット銀は決済中心のイーバンクとジャパンネット銀行、資産運用が柱のソニー銀行とが緩やかに事業をすみ分けてきた。新勢力の参入でこの秩序も崩れつつあり、各行による顧客の奪い合いは一段と激しさを増す可能性がある」(8/16付け 日経ヴェリタス)

## <直近の業績比較>

	2010年3月期 1Q 四半期純利益	口座数(※1)	預金残高(※1)	※( )内:前年同期比 前年同月末比
住信SBIネット銀行	8.5億円 (前期赤字) 	569,864口座 (約2倍) 	8,273億円 (+3,407億円) 約2倍) 	フル バンキング
ソニー銀行	1.7億円 (▲73%)	750,354口座 (約1.1倍)	13,348億円 (▲34億円)	資産運用系
イーバンク銀行	2.0億円 (前期赤字)	3,324,000口座 (約1.1倍)	6,827億円 (▲941億円)	決済系
ジャパンネット銀行	5.5億円 (5.2倍)	2,028,000口座 (約1.1倍)	4,405億円 (+62億円)	決済系

(※)データ出所:各行公表資料

(※1)住信SBIネット銀行・イーバンク銀行・ソニー銀行は2009年9月末の残高、ジャパンネット銀行は2009年6月末の残高

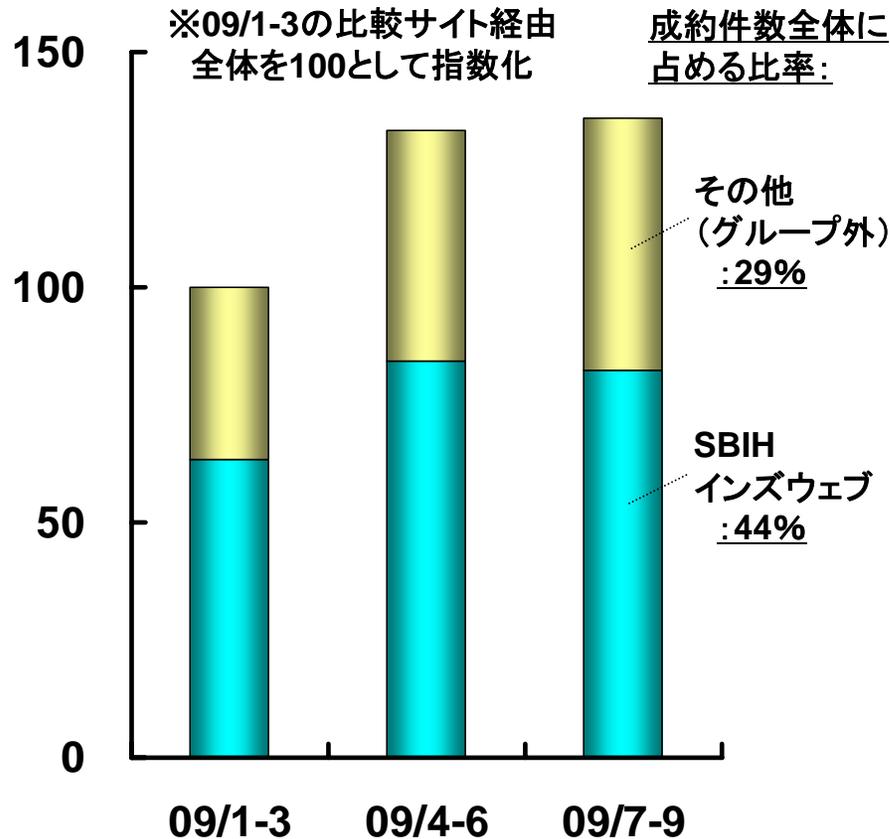
# 【SBI損害保険】

# グループ内シナジーを活用し成約件数が順調に増加

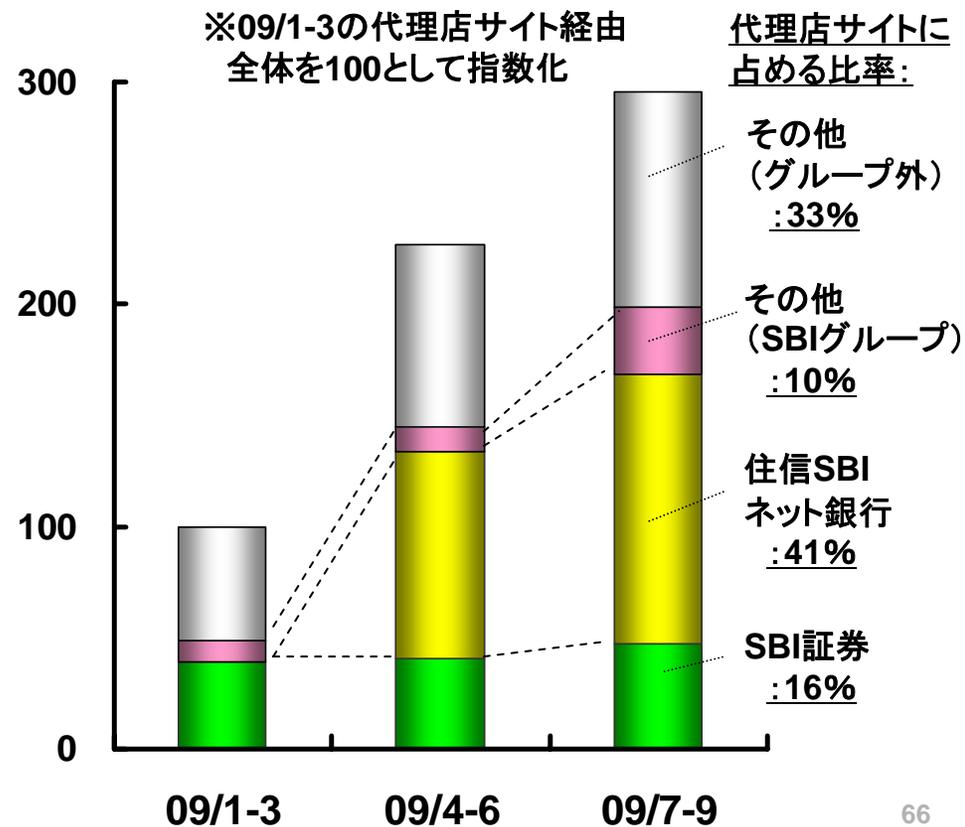
～4月より住信SBIネット銀行にて、9月よりSBIアクサ生命にて取扱いを開始するなどチャンネルを拡充、SBIグループ経由の取引は順調に増加～

## チャンネル別のSBI損保の成約件数 四半期比較

### 比較見積もりサイト



### 代理店サイト



# 今年度(2010年3月期末)の成約件数目標15万件の達成が確実な状況

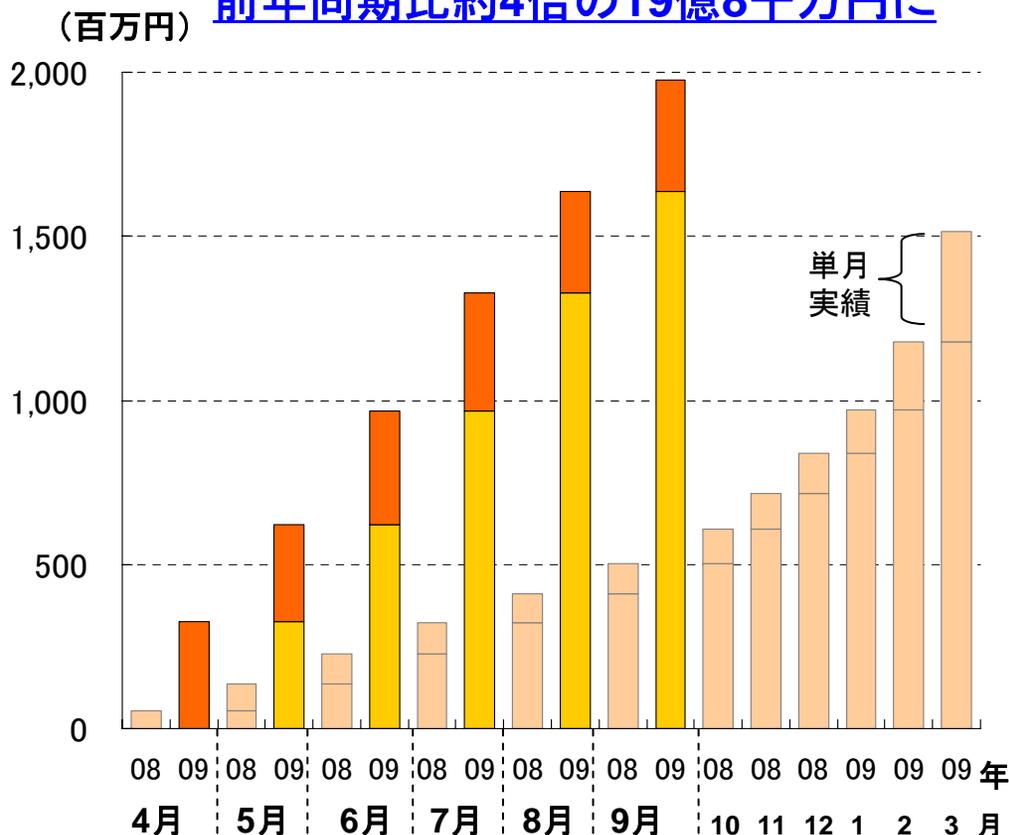
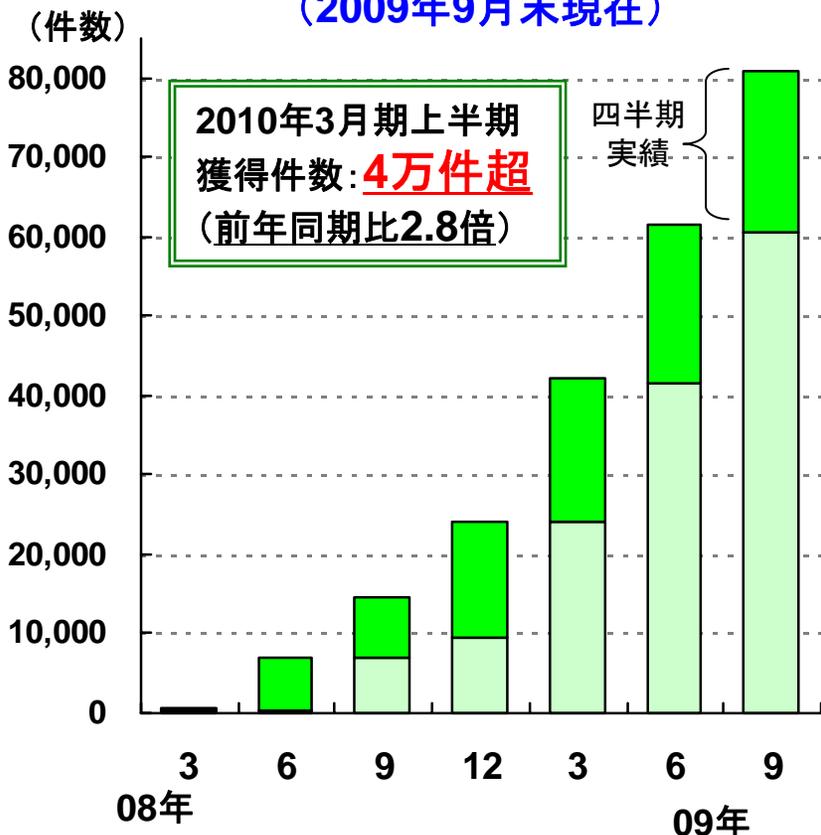
## 成約件数と元受収入保険料の進捗状況

自動車保険 契約数(計上ベース※)・累計

元受収入保険料(計上ベース※)・年間累計

開業来累計成約件数:8万件超  
(2009年9月末現在)

上半期(09年4~9月)の収入保険料は、  
前年同期比約4倍の19億8千万円に



※計上=保険料の入金完了

# 【SBIアクサ生命保険】

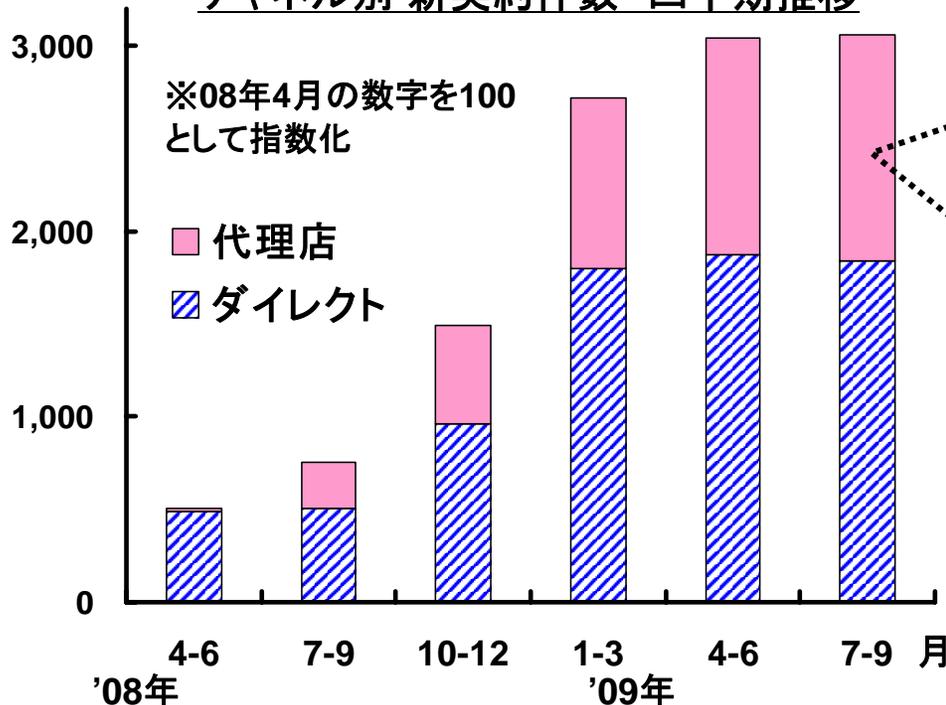
# チャネルの拡充を続け契約件数の増加を図る

ネット系を中心とした募集代理店は**91店に増加**(09年10月29日現在)

## 【グループ内のシナジーを最大限に活用した取り組み状況】

- ・08年11月～ 住信SBIネット銀行にて取扱いを開始
- ・09年 6月～ SBI損保にて取扱いを開始
- ・09年10月19日～ SBIマネープラザ(柏店、川崎店、銀座店)にて販売開始

チャネル別 新契約件数 四半期推移



### 【代理店チャネル契約件数シェア】

**SBIグループ合計: 21.4%**

(主な内訳)

- ・住信SBIネット銀行: 10.9%
- ・SBI証券 : 9.4%
- ・SBI損保 : 0.7%

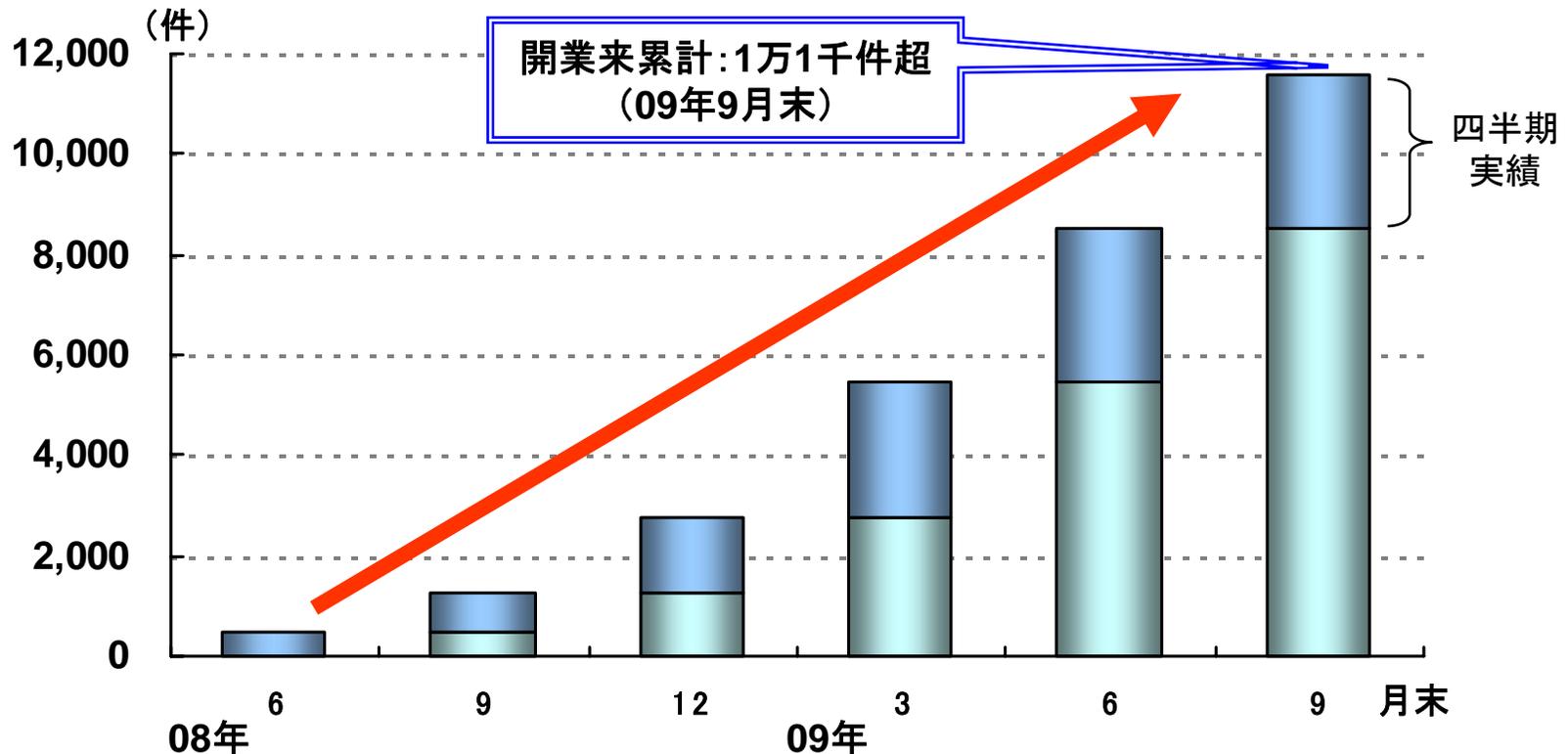
(2009年4-9月実績)

# 契約件数は月間平均約1,000件と急速に伸長

～ 前年度上半期(08年4-9月)の月間平均約210件から大きく伸長 ～

既存ダイレクト生保のチューリッヒ生命(月間平均666件)、損保ジャパンDIY生命(同431件)を大きく上回る水準で推移(※)

「SBIアクサ生命」新契約件数推移(累計)



出所: 各社開示資料よりSBIホールディングスが作成 (※)DIYとチューリッヒは、2008年度の公表数値をもとに月平均を算出

# SBIアクサ生命が「総合力で最安値」と評価

週刊エコノミスト増刊号「エコノミストマネー」の『保険を徹底比較！』の中で、SBIアクサ生命の「カチッと定期」が6社の定期保険中「総合力で最安値」と紹介。

「2,000万円以上なら若年層でも保険料は最安に」

## 【インターネットで詳細な情報が得られる代表的な「定期保険」6商品の比較】

会社名		SBIアクサ生命 「カチッと定期」 (※)	ライフネット 生命	オリックス 生命	アフラック	アリコ ジャパン	CO-OP 共済連
病気死亡時の 保険金額 1000万円の 保険料	30歳	1,530	1,328	1,840	2,380	3,370	1,700
	35歳	1,940	1,764	2,250	2,810	3,810	2,200
	40歳	2,690	2,580	2,980	3,600	4,640	3,100
	45歳	3,870	3,923	4,220	4,910	5,980	4,600
	50歳	5,620	5,898	5,960	6,690	7,790	6,900
	55歳	8,200	8,722	8,400	9,210	10,370	10,000

(※) 2000万円以上は高額割引あり

## 住宅不動産関連事業

2010年3月期 第2四半期累計  
売上高 126億円(前年同期比 47%減)  
営業利益 ▲6億円(一)

### 主な連結子会社等

- SBIホールディングス(事業部)
- SBIライフリビング(7/1付でリビングコーポレーションより商号変更)
- SBIモーゲージ
- セムコーポレーション

※ 上記はファンド連結後のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

※ 億円未満を四捨五入した数字です。

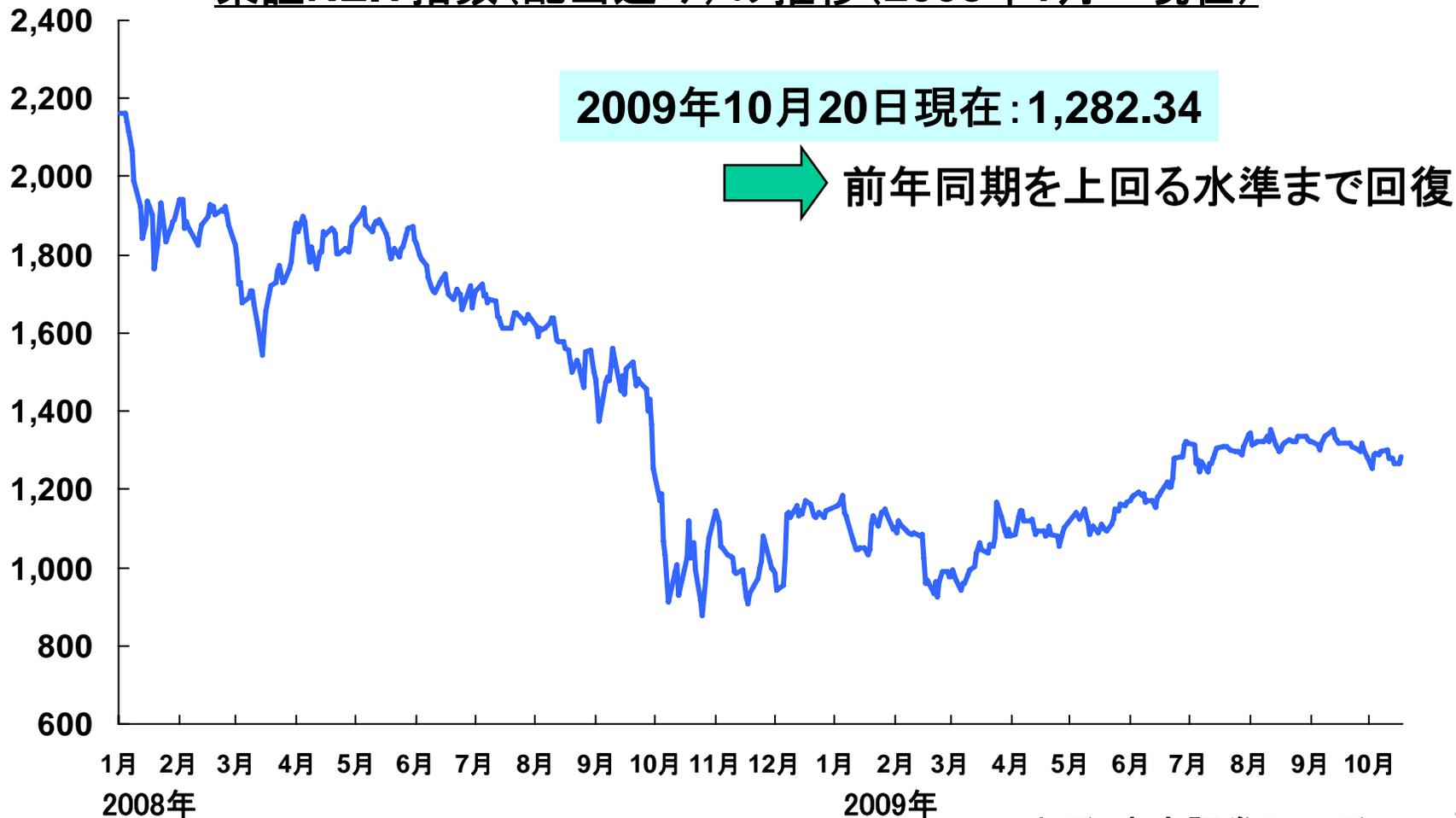
# 住宅不動産関連事業のハイライト

- I 住宅不動産関連事業は、国内の不動産市場収縮が続いていることなどから、前年同期比で売上高は**47%減の126億円**、**6億円**の営業損失を計上。なお、たな卸不動産残高381億円に対する上半期の評価損の計上額は4億円。また、ゼファー社向け貸付金に関する同社との訴訟に関し和解が成立したこと等により、当第2四半期に特別損失として14億円の貸倒引当金繰入を計上。今後、ゼファー社向け貸付金の担保不動産の売却が進むことから、貸付金の回収も促進されると考えられる。
- II 不動産事業については、金融環境の低迷及び持続する不動産市場収縮の影響等により、引き続き主たる購入者である不動産ファンドとの取引は低迷し、売上高、営業利益ともに大幅に減少。しかし不動産市場にも回復の兆しが一部見え始めており、市場動向を勘案しながら、資金化可能な物件は今後順次売却を進める。なお新規投資は、マーケットの状況を見つつ慎重な投資スタンスを継続。
- III SBIモーゲージは住宅ローン商品「フラット35」を業界最低水準金利で提供、実行残高は2009年7月に5,000億円を超え、9月末には**5,825億円**と急拡大中。
- IV SBIライフリビングに譲渡した仲介サイトや生活関連比較サイトの運営事業は、第2四半期(3ヶ月)の売上高は**349百万円**、営業利益は**135百万円**と事業譲渡後も堅調に推移していることから、SBIライフリビングは四半期ベース黒字化。

# 回復の兆しが見えてきた国内不動産市場

現在の保有物件も不動産市況の動向を見ながら順次売却を進める

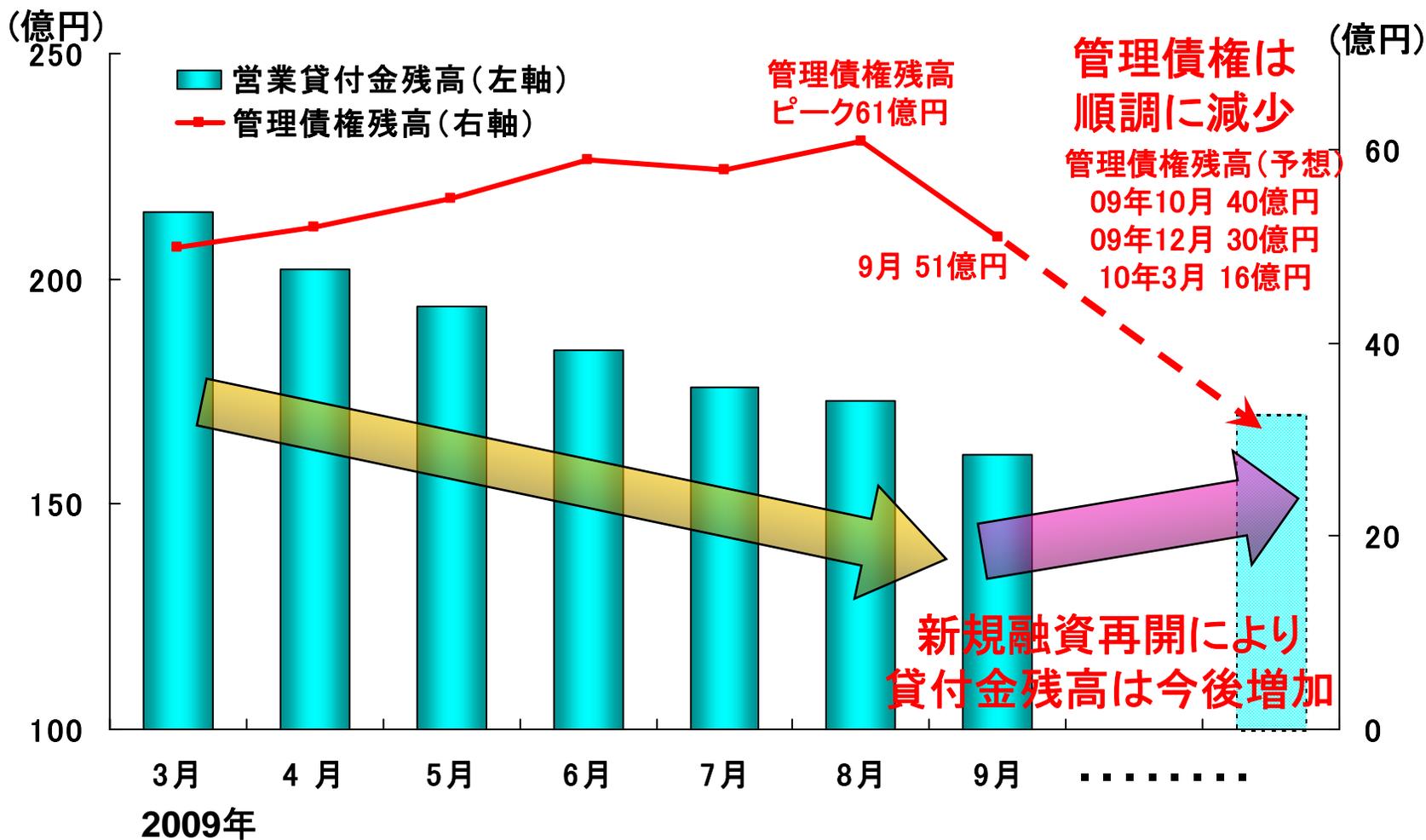
東証REIT指数(配当込み)の推移(2008年1月～現在)



# 管理債権の回収が順調に進むセムコーポレーション

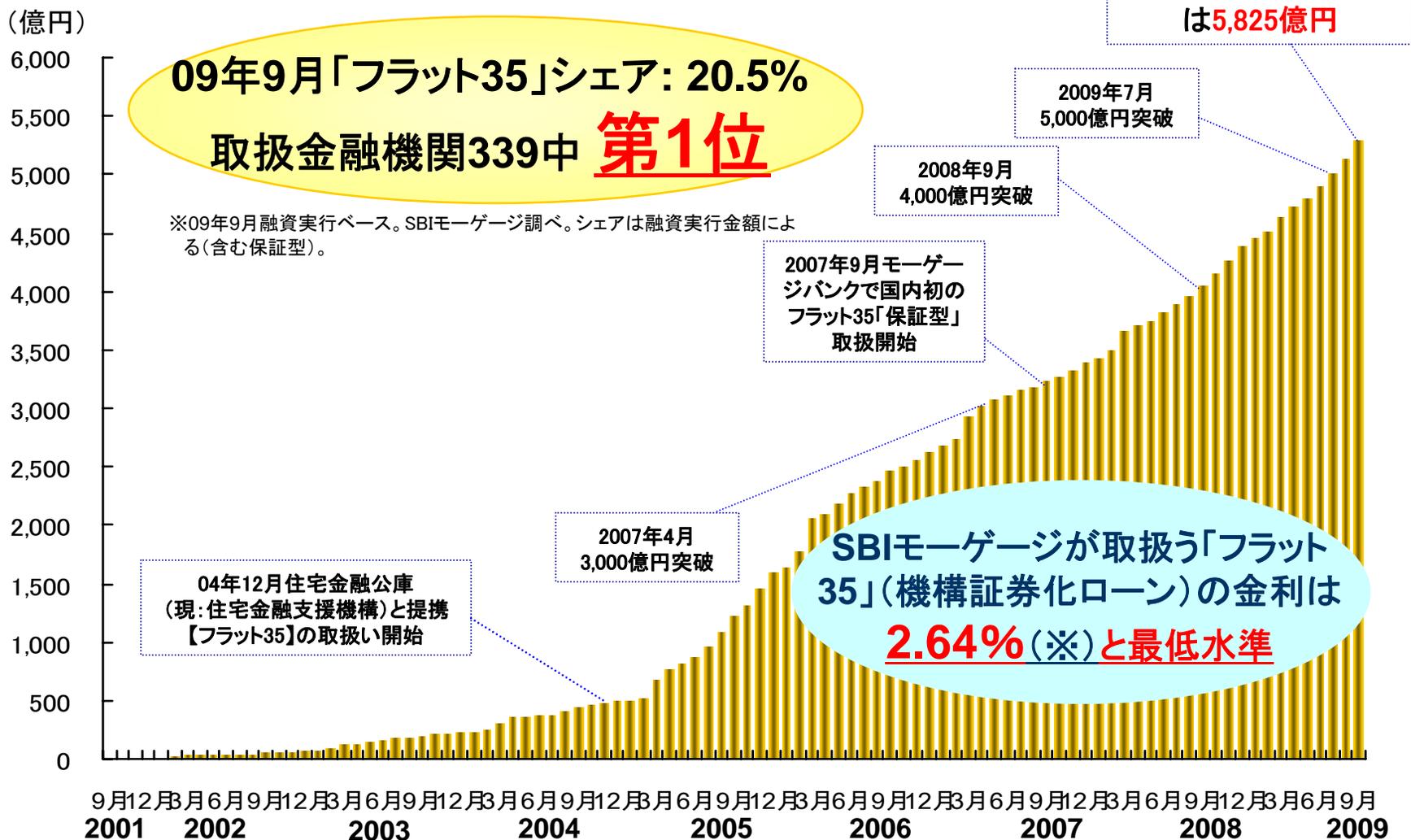
不動産担保融資をおこなうセムコーポレーションでは、  
管理債権の圧縮が順調に進み、新規融資を積極展開中

## セムコーポレーションの営業貸付金ならびに管理債権の残高推移



# 順調に残高を積み上げるSBIモーゲージ

## 住宅ローン実行残高の推移



(※)09年10月買取型の融資実行金利

### **(3) 経営の一層の効率化を目指して継続している SBIグループ内の組織再編成**

# 経営の一層の効率化を目指した SBIグループ内の組織再編成①

## 完全子会社化

### SBIフューチャーズ

国内商品先物市場の市場規模縮小等、事業環境が著しく悪化している為、商品取引受託業務を廃止し(7月31日)、株式交換により完全子会社化(効力発生日:8月1日)

## 売却

### SBIカードプロセッシング

ノン・コア事業であることからカード事業と切り離し、合併パートナーであったSilverlake Axis Limitedへの保有株式の譲渡契約を締結(10月6日)

## 事業効率を高めるため他の企業グループへ

### インテクストラ(旧SBIインテクストラ)

インテクストラの実施した第三者割当増資に日本ユニシスが応じ、同社の子会社に(8月24日)。なお引き続き同社株式の45%を保有。

# 経営の一層の効率化を目指した SBIグループ内の組織再編成②

## より成長できる環境への事業移管等

### SBIライフリビング(旧リビングコーポレーション)

新たな事業モデルの構築と、収益の多様化による事業規模の拡大を図るべく、7月1日付でSBIホールディングスの生活関連ネットワーク事業の一部および不動産サービス事業を移管。

### SBIイコール・クレジットカード

関連する事業を一体的に運営することで事業効率を高めることを目指し、SBIカードとの統合を予定

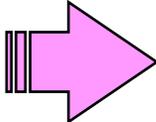
## 2. 2010年3月期下半期以降の 収益確保に向けた取り組み

- (1) アセットマネジメント事業に見られる明るい見通しと、  
海外への企業生態系移出に向けた布石
- (2) 現在の株式市況においても、着実に顧客基盤を  
拡大している証券関連事業
- (3) 引き続き短期間での大きな成長が期待される  
住信SBIネット銀行

**(1) アセットマネジメント事業に見られる明るい見通しと、  
海外への企業生態系移出に向けた布石**

# 下期の IPO・M&A 見込み

今期のIPO・M&A社数の見込みは、前期時点での見込みから2社上方修正し14社に。11月以降にIPOを見込むBJB Career Education Company, Limitedは、2008年2月に設立した北京大学ファンド(SBI BDJB China Fund,LP)からも投資しており、直近に設立した海外ファンド群でのインキュベーションも順調に進捗している。

	1Q時点見込み		今回見込み
※1 IPO・M&A 社数	12		14 (うち、3社が上期に IPO・M&A)

## ★ 第3四半期：7社 (下記4社のほかに3社のIPO・M&Aを見込んでおります。)

10月23日	(株)デ・ウエスタン・セラピテクス研究所	(ジャスダックNEO)
11月10日	Helixir Co., Ltd	(M&A)
11月20日	(株)エフオーアイ	(東証マザーズ承認済み)
11~12月	BJB Career Education Company, Limited	(NYSE 申請中)

## ★ 第4四半期：4社

※1 LP出資しているNew Horizon Capital(2号ファンド)に組入れられている銘柄からのExit社数(6社)を含みます。なお、6社のうち上期中に2社Exitしており、さらに第3四半期に2社、第4四半期に2社のExitを見込んでおります。

※2 IPO予定件数は、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

# New Horizon Fund の運用状況

- 2005年5月の運用開始から、投資先10社のうちこれまでに7社が上場
- 設立から2009年度2Qまでの累計営業利益では**94億円**
- この環境下でも当社持分で**約56億円**(10/28現在)の含み益を有しており、最良の売却タイミングを見計らって利益極大化を図る

(単位:百万USDドル)

投資先名	投資残高	種類	IPO/M&A 予定	キャピタルゲイン		
				2008年 3月末	2009年 3月末	10月28日 現在
Sichuan Meifeng Chemical Industry	9.8	A株		63.7	26.4	22.9
Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development	2.6	A株		144.6	66.6	74.5
China Printing & Dyeing Holding	-	普通株		0.2	-	※1 -
Yingli Green Energy Holding	-	普通株		4.5	-	-
Kingsoft	-	普通株		2.3	4.4	-
Goldwind Science and Technology	0.5	A株		124.9	29.9	10.9
China Cord Blood Corporation	4.1	普通株		17.6	17.6	14.7
Jiangsu Ealong Biotech	2.5	プレM&A	2010	5.6	5.6	5.6
Shineway Group	20.4	プレIPO	2010	15.0	15.0	15.0
Cathay Industrial Biotech	12.0	プレIPO	2011	79.1	79.1	79.1
<b>合計</b>	<b>51.9</b>			<b>457.5</b>	<b>244.6</b>	<b>222.7</b>

IPO済  
時価評価

IPO/M&A  
未済  
予想評価

(約458億円) (約240億円) (約204億円)

## 【当社受領分配金額】※2

【09年度3Q以降の見積額】(2009年10月28日現在の見込)

設立~2007年度	2008年度	2009年度 1-2Q累計	2009年度3-4Q	2010年度	2011年度	09年度3Q以降の 総分配見積額
9億円	61億円	32億円	46億円	28億円	30億円	104億円

注: 分配金見積額は、現在及び将来上場もしくは売却する株式の予想時価から見積もった金額で、これらの金額が確定しているわけではありません。

※1 清算中 ※2 売却額より売却に付随する費用を差し引いた額。

# New Horizon Capital(2号ファンド)も高パフォーマンスを見込む

2号ファンドの投資企業14社のうち、すでに2社がイグジット済み  
その他の7社についても今期～来期のIPOまたはM&Aによるイグジットを予定

## イグジット済銘柄:2社

会社名	EXIT形式	時期
GCL	M&A	2009年6月
<b>New</b> BBMG	IPO	2009年7月

## イグジット予定銘柄:7社

※10月20日時点の見込みであり、変更となる可能性があります。

会社名	EXIT形式	予定時期
New Century	M&A	2009年
Meihua	M&A	2009年
Navinfo	IPO	2010年1Q
YuHeng	IPO	2010年2Q
Rong Sheng	M&A	2010年
<b>New</b> Sunac	IPO	2010年1Q
<b>New</b> Sinovel	IPO	2010年

2009年10月、ニューホライズン3号ファンドへの  
40百万米ドル出資(ファンド総額の10%)に関する最終合意を締結

# その他の海外VCファンドの運用状況

～ 08年2月設立の北大青鳥ファンドは1社が上場予定 ～



SBI VEN CAPITAL PTE. LTD

(シンガポール拠点)

## ・北大青鳥ファンド:



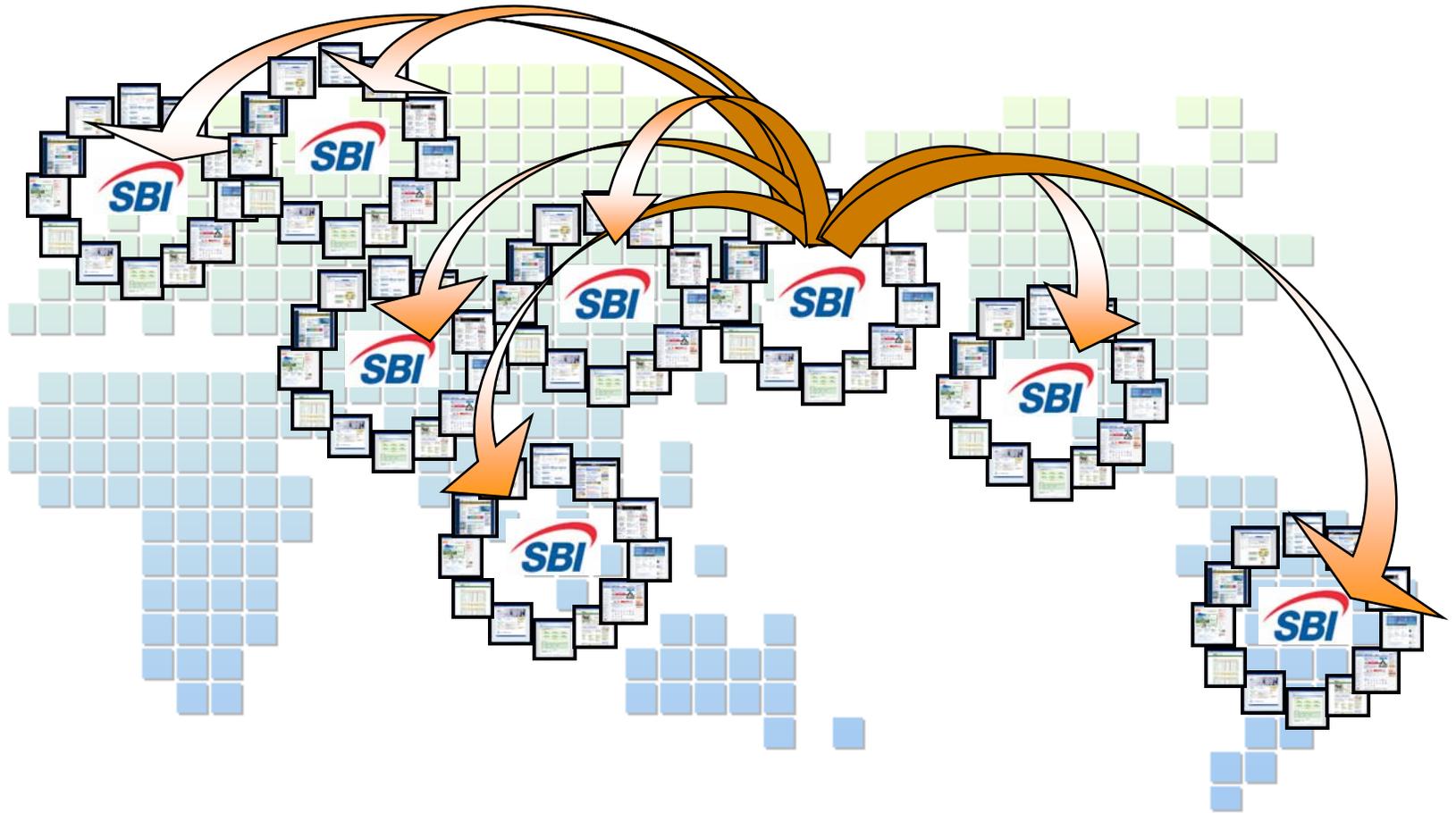
08年2月設立の北大青鳥とのJVファンドは、投資実行済企業のうち1社 (BJB Career Education Company, Limited.)が11月末に上場予定

## ・韓国ファンド:



9月に韓国金融監督院より500億ウォン規模のファンド設立承認を受け、年内を目処にターゲットである貯蓄銀行への投資を完了予定

# JVファンド設立を通して構築した パートナーシップ等を活用し、アジアをはじめとする新興国に 向けてSBIグループのインターネット金融生態系を移出



# アジアの成長力をSBIの成長力へつなげる

## ～ ファンド運営事業を軸に様々な金融事業へ拡大 ～



・中国:



中国大手損保への出資を予定

・カンボジア:



昨年9月に開業したプノンペン商業銀行は、09年4月に累積損失を解消し、単年度黒字化の見通し

・ベトナム:



09年8月にベトナムのティエン・ホン銀行の新株発行増資を引き受け、合計で同社発行済み株式の20%持分相当を取得

・インド:



インドの金融機関と、インドにおける証券会社の設立を検討中

・ロシア:



ファンド提携先のIFC METROPOL社傘下の銀行への出資に向けて条件交渉中

・スリランカ:



スリランカの金融機関への出資を検討中

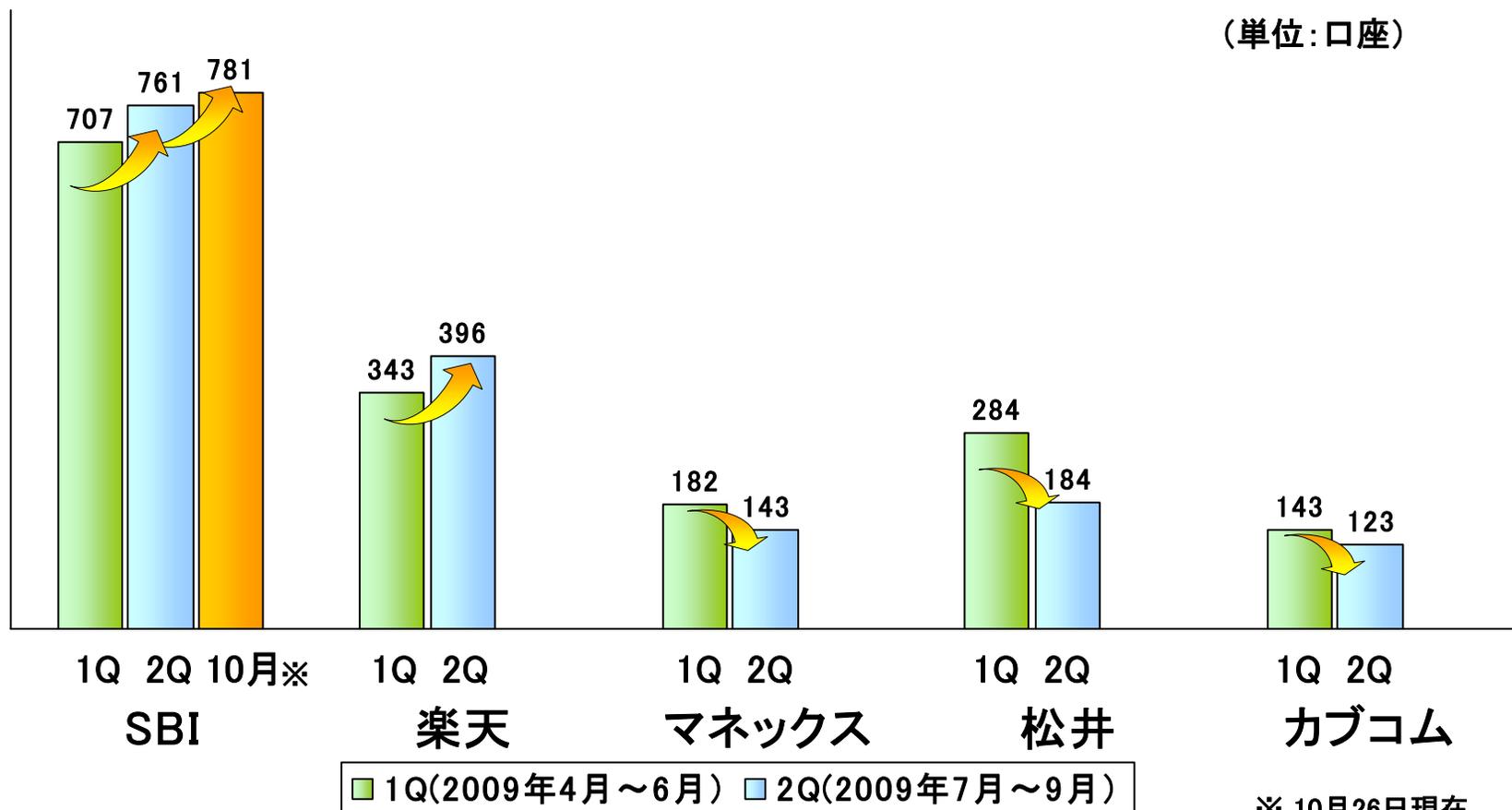
**(2) 現在の株式市況においても、着実に顧客基盤を  
拡大している証券関連事業**

# 増加を続ける新規口座開設数

安価な手数料と、多様な商品・サービスの提供により、  
同業他社を大きく上回る水準で新規口座開設数が引き続き増加

## 主要オンライン証券5社における一日平均新規口座開設数の推移

(単位:口座)



※ 10月26日現在

# 10月に入り急増した株券在庫額

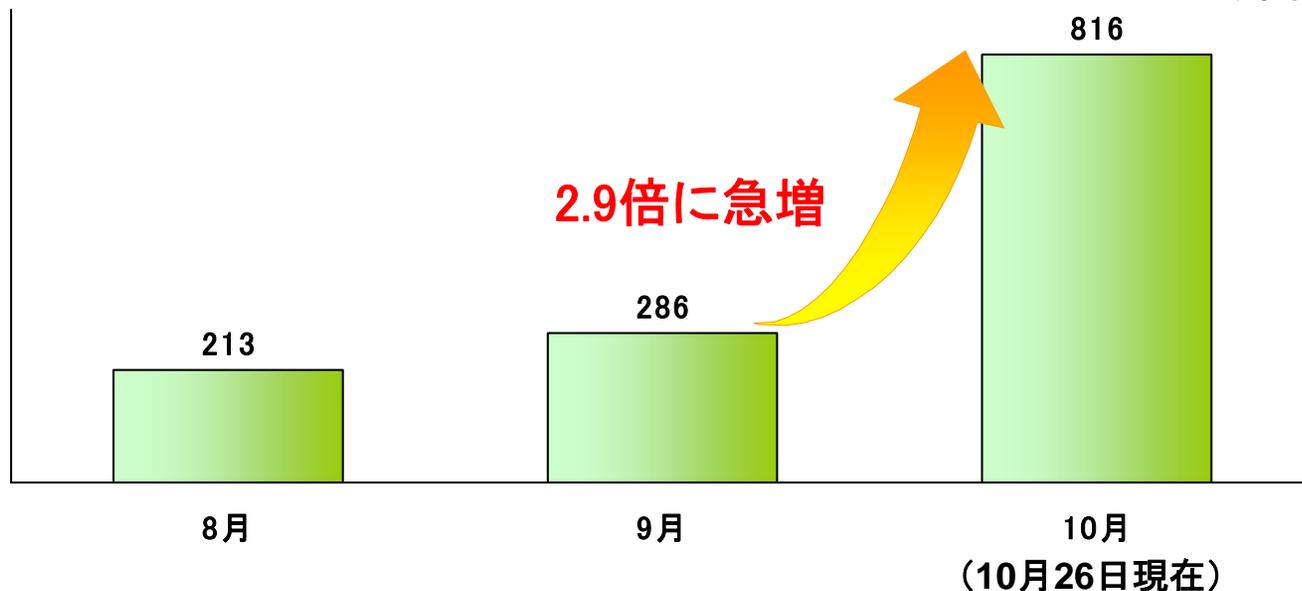
野村ホールディングス

2009年1月27日 野村証券とジョインベスト証券の統合検討を発表

2009年9月18日 本年11月23日付けでの統合を正式発表

SBI証券における一日平均株券在庫額(在庫額-出庫額)

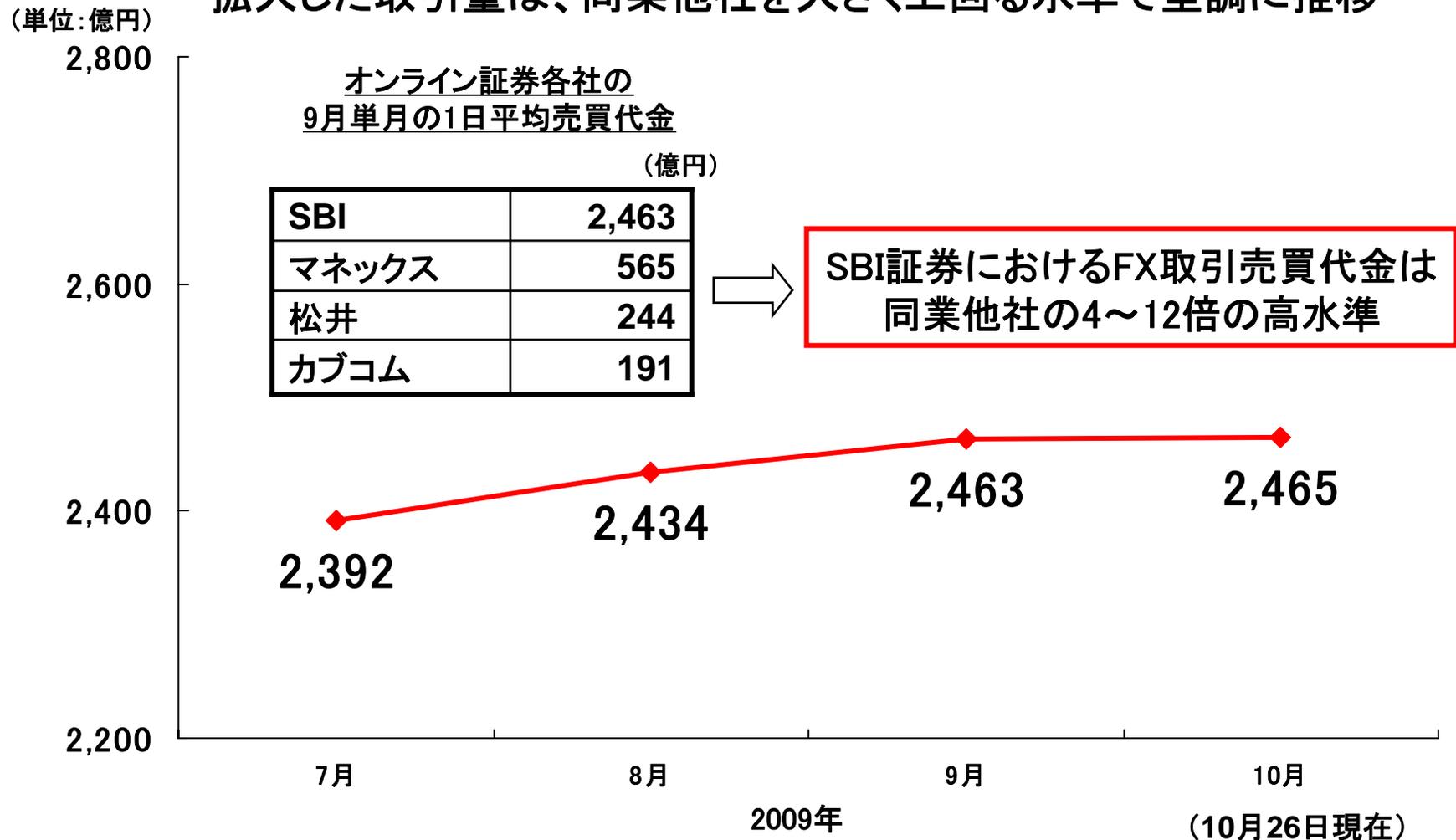
(単位:百万円)



7月に発表した手数料引き下げも奏功し、10月に入りジョインベスト証券から多数の顧客がSBI証券に流入

# SBI証券におけるFX取引売買代金は 引き続き高水準で推移

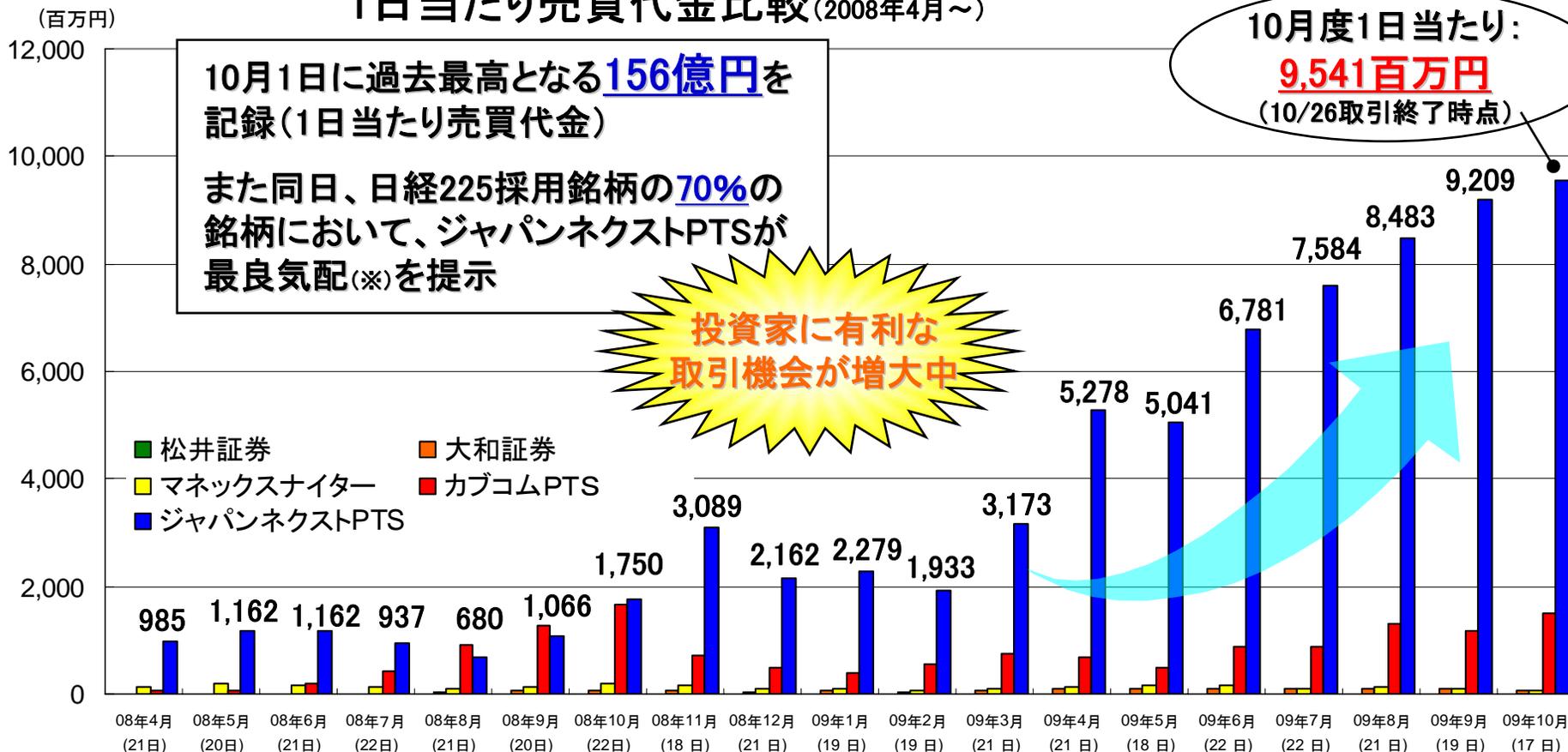
SBIリクイディティ・マーケットを活用しサービス内容を拡充したことで  
拡大した取引量は、同業他社を大きく上回る水準で堅調に推移



# ジャパンネクストPTSでの取引量は 安定的に増加を続ける

他の私設取引市場において売買代金が低迷する中、  
当PTSの売買代金は堅調に増加を続ける

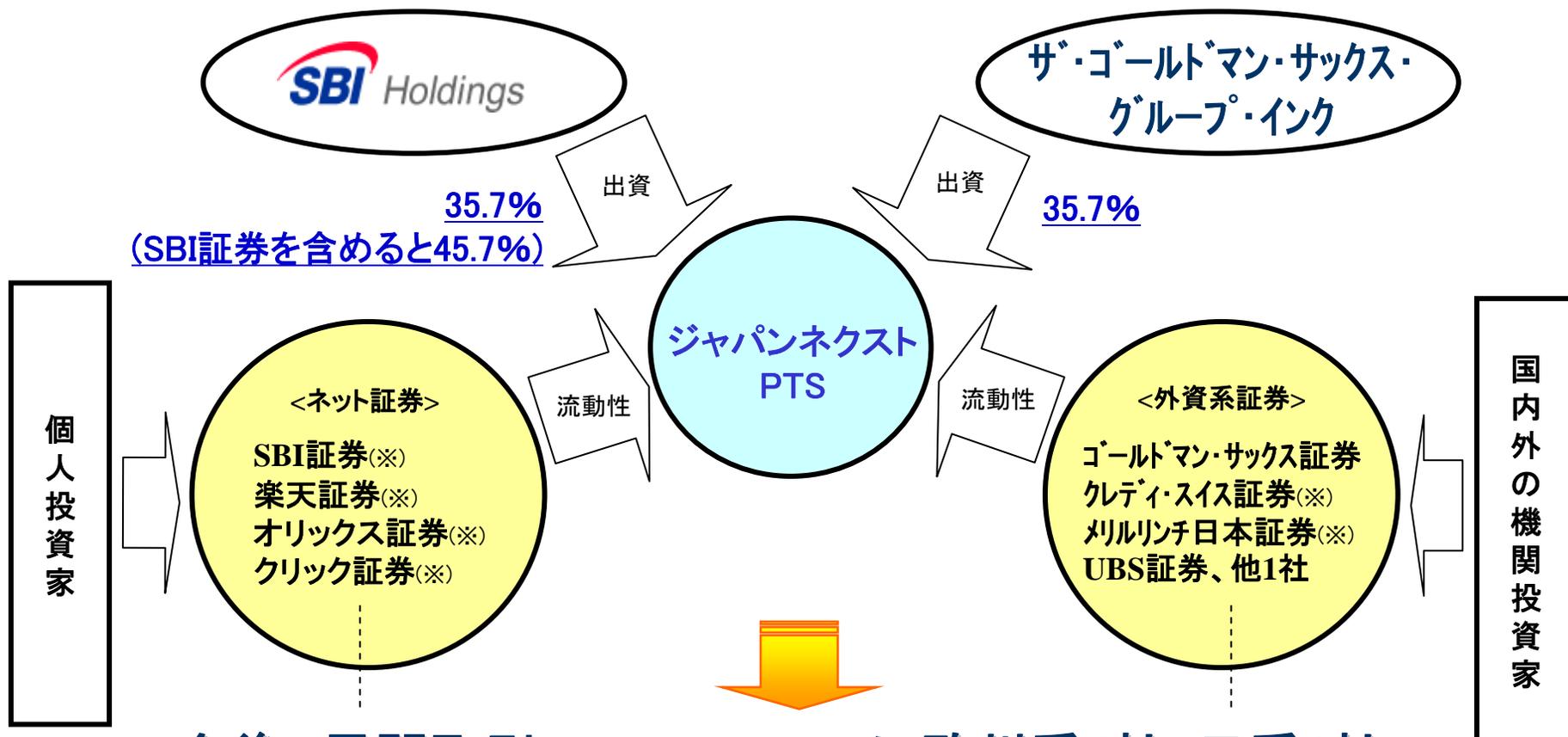
## 1日当たり売買代金比較 (2008年4月～)



(※)取引所よりも有利な気配値段、トムソンロイターにて確認 売買代金は各社HP、日本証券業協会HP、日経QUICKより当社にて集計  
なお売買代金は当社独自に集計したものであり、各社の今後の公表数値とは異なる場合があります。  
シングルカウントとなっており、売りと買いの合計ではありません

# 新たな接続証券会社の参加により期待される ジャパンネクストPTSの取引拡大

～投資家にとって、より多くの取引機会を提供～



今後、昼間取引(8:20AM～4:30PM)に欧州系4社・日系1社、  
夜間取引(7:00PM～11:59PM/0:30AM～2:00AM)に **欧州**  
系1社が取引参加を予定

# 多様な証券関連サービスの訴求による顧客獲得

安価な手数料のみならず、グループ内に存在する多様な証券関連サービスを  
活用することでSBI証券の顧客基盤ならびに収益の極大化を図る

## SBI証券

**債券**

新発債券取扱実績：  
円債238本／外債106本※

日本インベスターズ証券  
会計士等279名から成る  
156の会計事務所等の  
ネットワークを活用した  
金融商品仲介業務を譲受

**為替**

主要オンライン証券最多の  
20通貨ペアでのFX取引

**SBI Liquidity Market**

FX(外国為替証拠金)取引に  
おける為替市場機能および  
マーケットインフラシステム提供  
(2008年11月17日開業)

**投資信託**

高・好配当、ノーロード、資源・環境  
関連ファンドなど取扱い本数：**502本**※

**SBI Fund Bank**

投資信託に特化した  
金融商品仲介業

**MORNINGSTAR**

金融商品の評価情報  
等の提供

**株式**

- 国内株式(ETF、REIT等含む)
- 外国(米国・中国・韓国)株式

**SBI Japannext**

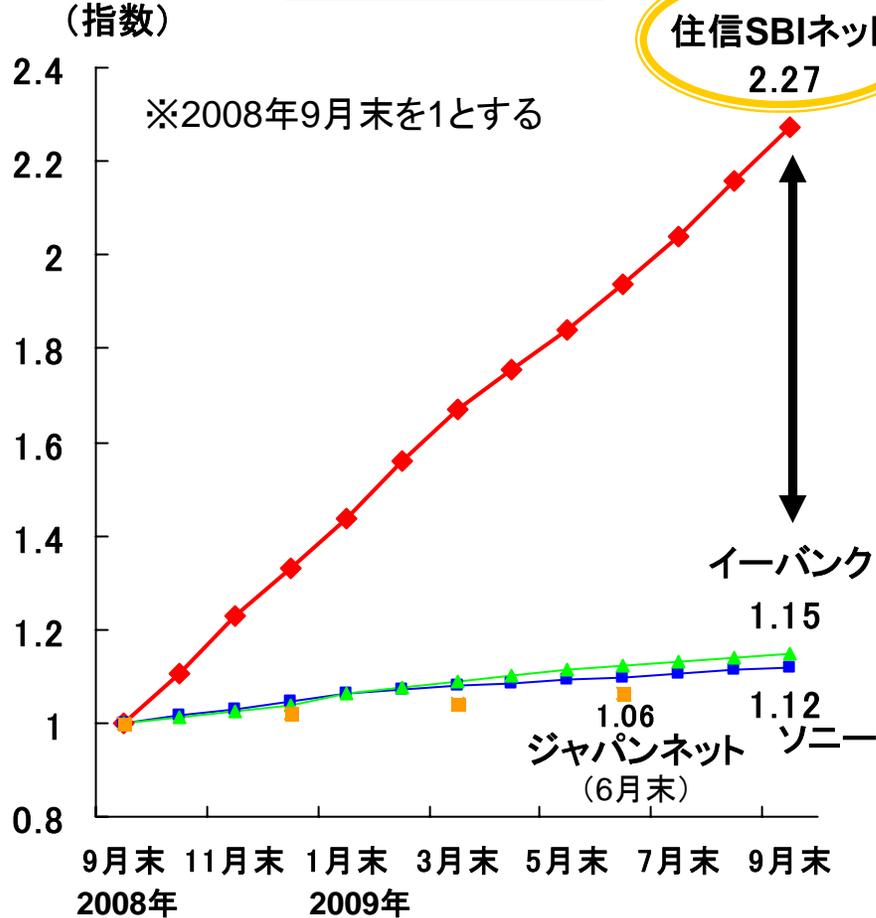
国内証券取引所上場のほぼ  
全ての銘柄の取引が可能な、  
「ジャパンネクストPTS」を運営  
(2008年10月28日～昼間取引も開始)

日本最大規模の  
PTS市場

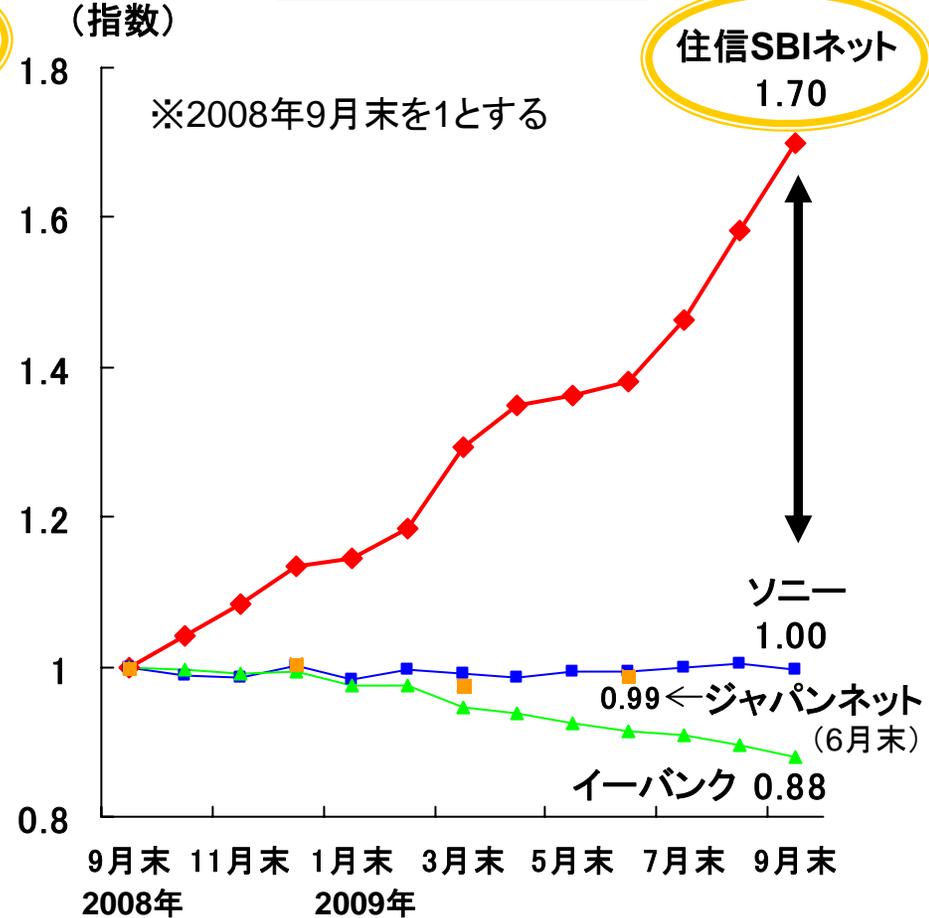
**(3) 引き続き短期間での大きな成長が期待される  
住信SBIネット銀行**

# インターネット専業4行の顧客基盤拡大の推移 (直近1年間)

## 口座数の推移



## 預金残高の推移



**住信SBIネット銀行は口座数・預金残高ともに1年前の約2倍に拡大**

# 資金運用先の更なる拡充を図る

グループシナジーを追求することで多様な顧客ニーズに対してトータルソリューションを提供すると同時に運用の多様化を図る。

## 住信SBIネット銀行



口座数: 587,201口座  
預金残高: 8,440億円

(2009年10月25日時点、※速報値)

- ・住宅ローン: 住宅ローン実行累計額3,000億円突破(2009年9月11日)
- ・オートローン: 2009年7月からは「SBIオートローン」への資金提供も開始
- ・不動産担保ローン、個人向け無担保ローン、診療報酬債権ファクタリング  
(レセプトファイナンス)など運用先を拡大中。

<今後の可能性>

- ・金利スワップ、CP引受、安全かつ利回りの良い証券化商品の組成、  
など証券分野と融合した業務・運用の多様化
- ・SBIグループの運用機能の活用

### 3. SBIグループの今後の飛躍に向けた重要施策

- (1) 新規事業の業績飛躍を目指した  
異業種との提携によるサービス拡大
- (2) 顧客への更なるリーチ拡大を目指した  
リアルチャネルの拡充

**(1) 新規事業の業績飛躍を目指した  
異業種との提携によるサービス拡大**

# 中古車オークション会場運営大手のJAAと共同設立した SBIオートサポートの中古車販売業者登録数は順調に増加



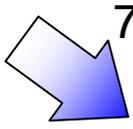
【自動車関連金融商品】

・自動車保険:

SBI損保

・オートローン:

住信SBIネット銀行



70%



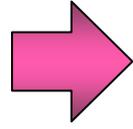
30%



**SBIオートサポート(株)**

・中古車販売業者を通じた購入者への金融サービス提供を支援

- ・オークション会場運営ノウハウ (国内3ヶ所運営)
- ・会員数: 約15,000社
- ・年間総出品台数: 約70万台



**中古車販売業者**



中古車購入者

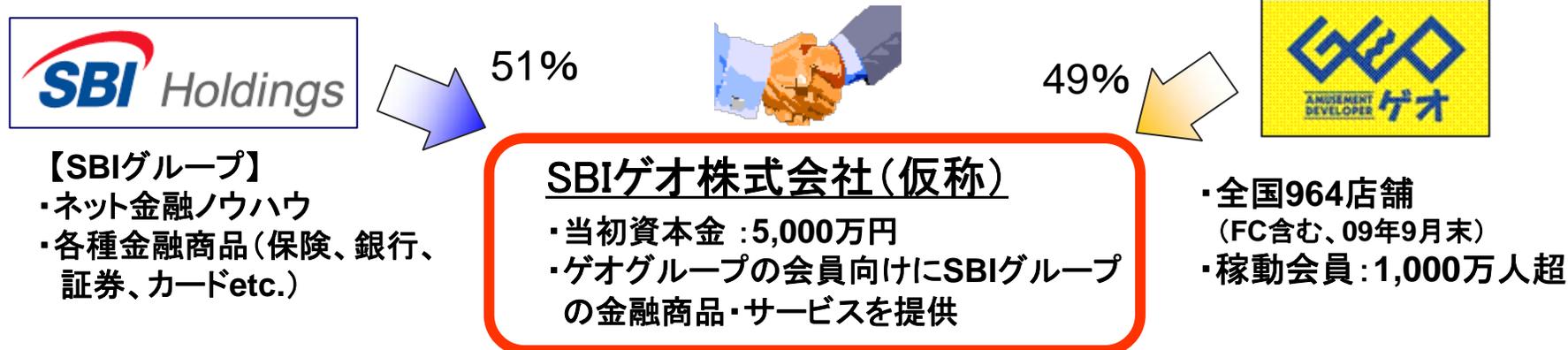


※保険・ローンの合計。  
ローンは7月より開始。  
09年10月28日現在。

# DVDレンタル・ゲーム販売大手のゲオと提携

(2009年8月28日発表)

## 【合併会社の設立(今秋設立予定)】



## 【自動車保険(SBI損保)】

- ・09年7月～、第一弾として、ゲオ店舗(当初350店舗)にてSBI損保の自動車保険の紹介と見積り申込受付を開始
- ・今後は、他のSBIグループ金融商品・サービスもゲオグループ会員向けに紹介予定

## 【ゲオとの提携カード発行(SBIカード)】

- ・2010年6月を発行目標に、ゲオグループの会員向け提携カードの発行を準備中

## 【ゲオ店舗内に「SBIマネープラザ」を併設】

- ・1号店オープンに向け、現在準備中

## 【決済機能の提供(SBIベリトランス、住信SBIネット銀行)】

- ・ゲオグループのウェブチャネル向けに、決済機能提供を検討中

# 中古車売買大手のガリバーインターナショナルと提携

(2009年10月7日発表)



## 【SBIグループの各種金融商品】

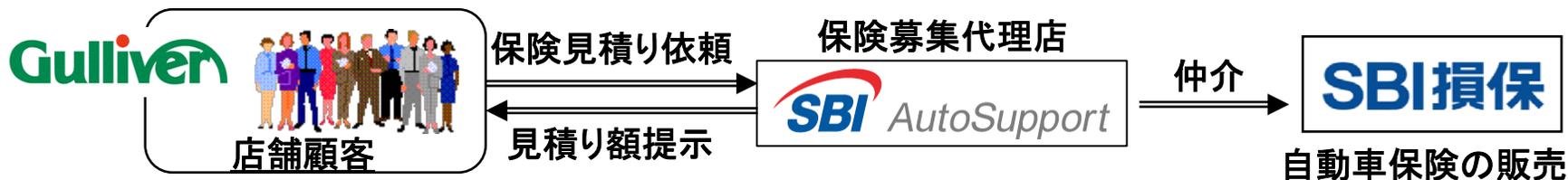
- ・自動車保険
- ・オートローン
- ・クレジットカード
- ・リース、etc.



- ・全国417店舗  
(直営店+加盟店、09年8月末時点)
- ・年間約25万台の買い取り
- ・年間約4万台の小売

## 【自動車保険(SBI損保)】

- ・09年10月～、ガリバーの車購入顧客に、SBI損保の自動車保険の紹介を開始
- ・09年11月～(予定)、中古車売却顧客に、これまでの車の情報に基づき見積りを提示  
=> 現在払っている自動車保険料との比較が可能に



## 【自動車ローン(住信SBIネット銀行)】

- ・ガリバーグループの顧客向けにオートローンの提供を検討中

## 【クレジットカード(SBIカード、SBI債権回収)】

- ・ガリバーグループの顧客向け提携カードの発行を検討中
- ・ガリバーグループの発行するキャリストカードの債権回収業務を検討中

## (2) 顧客への更なるリーチ拡大を目指した リアルチャネルの拡充

# SBI証券は小規模・地域密着型を営業戦略の要に

～代理店網の構築によりリアルを含めリテールNo.1証券を目指す～



SBI証券・支店

全23店舗



SBI証券・代理店  
(対面型金融仲介業者)

75拠点

日本インベスターズ証券

会計士・税理士・FPなどのネットワーク

SBIフィナンシャルショップ

住宅ローンショップを運営

等

金融商品に加え、グループ商品のクロスセル  
(住宅ローン、保険等)を行う。

SBI証券のみでの店舗展開



日本インベスターズ証券、SBIフィナンシャル  
ショップ、その他仲介業者の活用

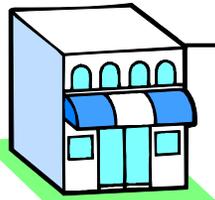


**目標拠点数(年度内): 150拠点超**  
(SBI証券の23店舗を含む)

# SBI住宅ローンショップを起点とするSBIマネープラザの展開

主にSBI住宅ローンショップからの転換による代理店方式での  
SBIマネープラザの出店を加速

## 2010年3月末までに100店舗の開設を目指す



SBI住宅ローンショップ

全43店舗

代理店方式により店舗網を拡大

フラット35などの住宅ローン販売  
実行残高 5,825億円 (9月末)

代理店オーナーは、もともと保険代理店の方が多い

1年以上運営の店舗はほぼ全て黒字化



新設・改装



SBIグループ内外の金融商品を取り扱う  
来店型金融ワンストップ・サービスを展開

10月18日	東京都町田市
10月21日	目黒区自由が丘 愛知県名古屋市 福岡県福岡市
10月25日	静岡県沼津市 さいたま市大宮区 埼玉県川口市 広島県広島市
10月28日	埼玉県熊谷市 青森県青森市 福井県福井市 大阪府大阪市
11月1日 (予定)	千葉県船橋市 新潟市中央区 横浜市都筑区 福岡県北九州市 熊本県熊本市

7月1日	千葉県柏市 (直営)
8月3日	神奈川県川崎市 (直営)
8月10日	中央区銀座 (直営)
9月7日	東京都立川市
9月28日	愛知県名古屋駅前

オープンしたSBI住宅ローン/SBIマネープラザ: **22店舗** (予定含む)

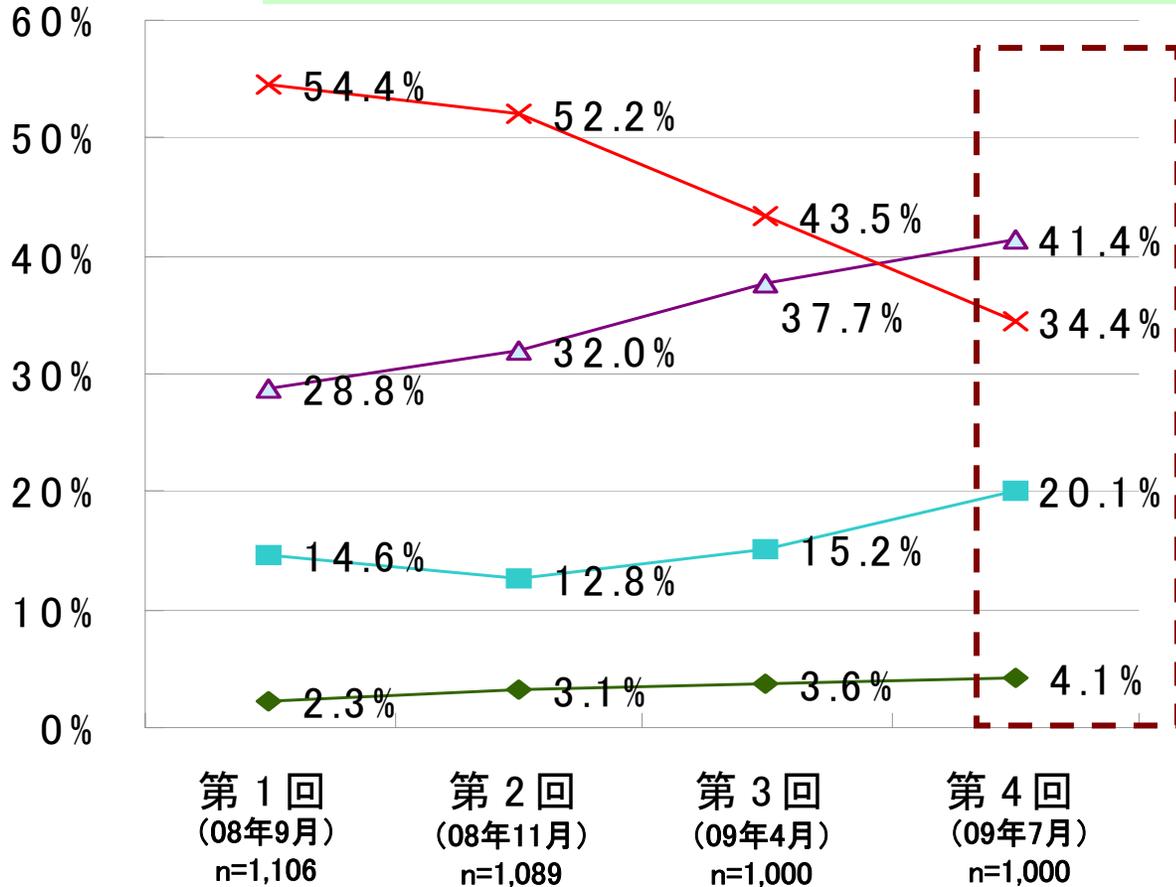
## 【参考資料】

# 「SBIグループ」に対する認知度

Q. あなたは「SBIグループ」をご存知ですか？

45.7% → 47.9% → 56.5% → 65.6%  
 (+2.2ポイント) (+8.6ポイント) (+9.1ポイント)

※SBIグループに対する認知は高まっている  
 (下記回答①+②+③)



- ③ 名前を聞いたことがある
- ④ 聞いたことがない
- ② だいたい知っている
- ① 詳しく知っている

調査方法: gooリサーチを利用したWebアンケート調査

調査実施期間: 第1回(08年9月9日~9月11日)、第2回(08年11月26日~11月28日)、第3回(09年04月13日~04月16日)、第4回(09年7月1日~7月3日)

# SBIホールディングス 株主構成の推移



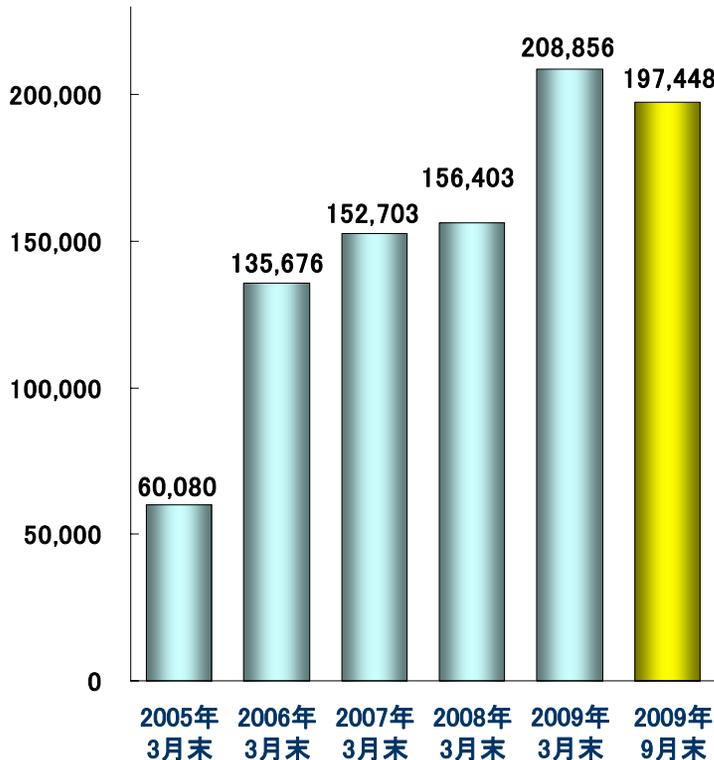
外国人投資家の保有比率は引き続き高水準で推移

(2009年3月末:44.2% → 2009年9月末:45.3%)

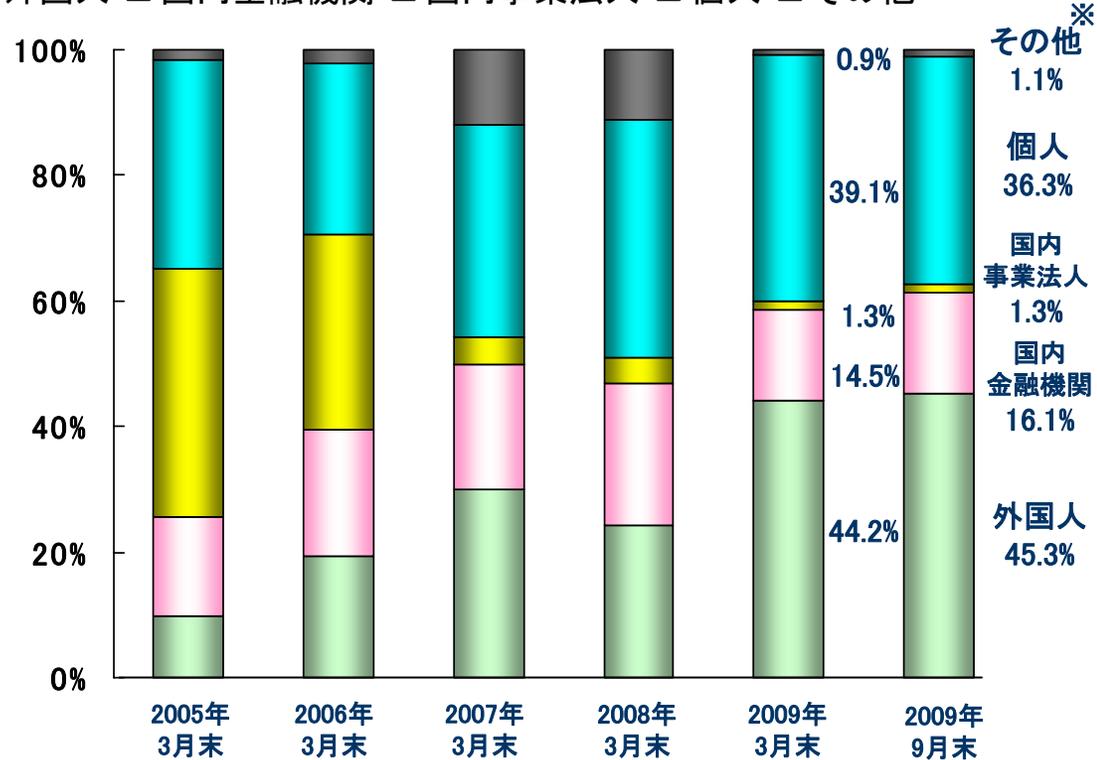
## 株主数の推移

## 株主構成比率の推移

(単位:名)



■ 外国人 ■ 国内金融機関 ■ 国内事業法人 ■ 個人 ■ その他



(2008年3月末までは端株主を含む)

※その他には「自己株式」0.2%を含む

*<http://www.sbigroup.co.jp>*